

平成22年度

# 「基礎学力調査」

— 分析・考察 —

平成22年10月  
石川県教育委員会

# 目 次

本書の構成	1
1 教科に関する調査について	
2 質問紙調査について	
<b>I 教科に関する調査結果の分析・考察</b>	<b>3</b>
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	12
《小学校第6学年 社会》	20
《小学校第6学年 理科》	26
《中学校第3学年 社会》	34
《中学校第3学年 理科》	40
《中学校第3学年 英語》	46
<b>II 質問紙調査結果の分析・考察</b>	<b>53</b>
1 小学校第4学年児童の調査結果	55
2 学習・生活状況と正答率との関係	61
3 教員の調査結果	63
<b>III 分析・考察のまとめ ー今後の指導に向けての留意点ー</b>	<b>67</b>

## 本書の構成

### 1 教科に関する調査について

#### (1) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号，用語
90%を上回っている場合	◎：良好である
80%～90%の場合	○：概ね良好である
70%～80%の場合	◇：基準に到達している
60%～70%の場合	▽：十分とはいえない
60%を下回っている場合	▼：不十分である

- ・領域・分野ごとの結果の状況，分析・考察及び今後の指導の方向性
- ・「指導改善のポイント」

#### (2) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに，改善に向けた指導事例を2事例記載し，以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点 ・関連問題 ・正答例，誤答例，正答率，誤答率，無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年，単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

### 2 質問紙調査について

#### (1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較，学年間比較及び項目間比較

#### (2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

#### (3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果

### 3 分析・考察のまとめ

- ・設問全体を通しての分析・考察，及び改善に向けての留意点





# I 教科に関する調査結果の分析・考察



小学校 第4学年  
「国語」「算数」

(1) 領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと (88.7%)】

◎：大事なことを落とさずに聞くこと [一2]

【大事なことを落とさずに聞くこと】

正答率は90%を超えており、大事なことを落とさずに聞くことは3年連続して良好である。また、設問一3の、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞く問も良好である。

設問番号	問題の内容	正答率	
一	2①	内容の聞き取り(理由)	96.5%
	2②		96.7%
	3	話合いの進行・結果	91.9%

【書くこと (62.1%)】

▼：中心を明確にして書くこと [七2]

▼：段落の改行や、句読点の正しい使い方 [七4表記]

【中心を明確にして書くこと】

設問七1・2・3は、書く過程の力を問う新問である。

そのうち、七2の「見出し」を書く設問の正答率は47.0%であり、不十分である。

児童の多くが、「見学メモ」と「文章」を関連付けられなかったことが原因と考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
七	1	書く必要のある事柄を選択して書く	70.7%
	2	書こうとすることの中心を明確にする	47.0%
	3	文章の間違いを正す	81.1%
	4 ㊦	相手や目的に応じて明確に書く	61.8%
	4 ㊧	段落の書き方・句読点の使用	31.2%

低学年段階から、児童に「メモなどを基に、構成を考え、文章にする」過程を意識させることが必要である。また、自分の考えを明確にするために、「事柄の順序に沿って(低学年)」、「段落相互の関係などに注意して(中学年)」などのポイントを指導することが必要である。

【段落の改行や、句読点の正しい使い方】

設問七4表記は、「句読点の使用」に「段落の改行」を加えた新問であり、正答率は31.2%である。誤答の多くは「段落の改行」であり、段落と段落との続き方に注意して書く力や、段落の始めは1まずあけて書くことの理解が十分でなかったことによるものである。

表記上のきまりなどの基礎・基本の習得とともに、学習過程に「構成」の学習を確実に位置付けて、段落の理解を図ること、さらに「推敲」の学習では、視点(段落の関係、主述の関係、句読点の使用等の言語事項)を明確にして、間違いを正したりよりよい表現にしたりすることが重要である。

(H17 指導資料集 指導事例3 参照)

【読むこと (71.5%)】

◇：目的に応じて、細かい点に注意しながら読むこと [二4]

▽：段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと [二3]

▼：目的に応じて、内容を大きくまとめること [二5]

【目的に応じて、細かい点に注意しながら読むこと】

設問二4での、必要なところは細かい点に注意しながら読む力は、基準に到達しているが、新学習指導要領で新たに加えられた「文章の引用」「文章の要約」への指導につなげていくことが求められる。

**【目的に応じて、内容を大きくまとめること】**

設問二五は、まとめの段落の一部を、中心となる語や文をとらえて、まとめる問題である。昨年より20ポイント近く上回ったものの、依然として不十分である。

6年間を通して継続的・段階的に積み重ねる螺旋的な指導が大切である。その際に、付けたい力を明確にした上で、適した言語活動を設定することが求められる。(事例2参照)

また、既習事項を掲示することや前の学年の教材による確認、単元後の他の教材の活用など学校全体で取り組むことも必要である。

(H18・H19 指導資料集 指導事例1・H20「分析・考察」指導事例1 参照)

設問番号	問題の内容	正答率	
二一	3	段落相互の関係(問いかけの段落)	61.7%
	4(1)	説明的文章の内容理解(調べる目的)	61.8%
	4(2)	説明的文章の内容理解(実験の方法)	88.7%
	4(3)	説明的文章の内容理解(実験の結果)	79.8%
	4(4)		78.7%
5	説明的文章の内容理解(二つ目の実験のまとめ)	58.6%	

**【言語事項 (76.4%)】**

○：毛筆・筆使いの理解 [六]

▽：「主語」と「述語」の関係の理解、筆順の理解 [四、五]

**【毛筆・筆使いの理解】**

設問六は新聞であるが、正答率は80%を超えており、毛筆の筆使いと用語の理解は、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	正答率
六	毛筆・筆使いの理解(「はね」)	88.9%

**【「主語」と「述語」の関係の理解、筆順の理解】**

設問四は、正答率が67.2%であり、「主語と述語」に関する力は徐々に付いてはきているが、4年連続60%台と、依然十分とはいえない。

設問番号	問題の内容	正答率
四	主語(先生が)	67.2%
	述語(話しかけました)	
五	① 筆順(長)	62.5%
	② 筆順(田)	61.5%

「主語・述語」の指導については、毎年課題となっている事項であり、低学年から、授業の中や日常生活の中で自分の書いた文章を読み直す習慣を付けるとともに、主述の関係がねじれて

いたり、主語が無かったりする文を取り上げ、児童が自ら気付くような指導を行う必要がある。

設問五については、①「長」は17年度、②「田」は20年度にも出題されている。今年度はそれぞれ10ポイント、6.1ポイント上回っているが、筆順に従って漢字を書く力はまだ十分とはいえない。

筆順の間違えやすい漢字を取り立てて指導することや、書写の指導と関連を図りながら、基本的な点画や筆順に従って書く指導をすることが大切である。

**指導改善のポイント**

□段落相互の関係に注意しながら、相手や目的に応じて、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させること (→ 事例1)

□段落相互の関係をとらえて、目的に応じた要点の抜き出し・文章の要約などの活動を充実させること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

(2) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

段落相互の関係に注意しながら、相手や目的に応じて、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
七 2	書くこと	書こうとする事を中心を明確にしなが ら書くことができる。	書く能力

七 2 なか2 の ② には、どのような見出しをつければよいでしょう  
か。見学メモや、なか1 の見出しをさんこうにして書きましょう。

正答例（準正答例）	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・はたらいっている人が気をつけていること(気をつけていること)</li> <li>・はたらいっている人に聞いた気をつけていること など</li> </ul>	本を整理すること	はたらいっている人にインタビュー
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
47.0% (9.6%)	42.1%	10.9%

② 指導改善に向けて

誤答の多くが、文章の中の一部の言葉にだけ着目し、見出しを付けている。これは、見学メモと文章を関連付けられなかったことが原因と考えられる。

指導に当たっては、まず、「書くこと」の単元において、「書くための材料を集める」「集めた材料を整理し、文章の組み立てを考える」「組み立てメモをもとに書こうとする中心を明確に文章を書く」「文章を見直す」「交流する」という学習過程をしっかりと意識することが大切である。

また、「書くこと」の単元だけではなく、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の単元においても、相手や目的に応じて、自分の考えをまとめたり伝えたりするための書く学習活動を設定することが重要である。

③ 改善事例

「書くこと」の単元（対象学年：低・中学年）

光村2下 くわしく思い出して書こう「楽しかったよ，二年生」

東書3下 つたえたいことをはっきりさせて書こう

『わたしの研究レポート』を書こう

1 指導のねらい

- ・段落相互の関係に注意しながら、相手や目的に応じて、自分の考えが伝わるように書く力を高める。

2 具体例

① 課題設定

○知らせたいことや書きたいことを決める。



学級日記や学級だよりを見ながら、みんなで考えてみましょう。先生が題材の例を提示したり、子どもが意見を発表し合ったりしたことを、カードに書くと選びやすいですね。

町たんけん  
秋まつり  
遠足

学校じゅうの木の下を歩き回ってはつばをあつめました。

(何をした)  
おちばでようふくを作りました。

たのしかった  
秋まつり

(だれが)  
みかさんが「きれい」と言ってくれたので、うれしくなりました。

(いつ)  
十一月、生活科で秋まつりをしました。

② 取材

○選んだ題材についてくわしく書き出す。

秋まつり  
いろいろな形のはつばを見つけた。  
おちばでようふくを作った。  
どんぐりをボタンにした。



ノートや絵、写真などを見ながら、したこと・見たこと・聞いたこと・感じたこと・友達と話したことなどを思い出そう。



書き出したことや調べたことをどのようにメモしておくかモデル(カード形式)を示し、はじめのメモに付け足していくことも大切ですね。

③ 構成

○書き出したことの中から知らせたいことを選び、順序を考える。



自分の伝えたいことを明確にするには、文章の組み立てを考えることがとても大切です。「はじめ」「中」「終わり」の構成にすると分かりやすくなります。そして、一番伝えたいことをくわしく書くようにしましょう。

※はじめの「メモ」に、いっしょにいた人のことや見たことや感じたことなどを思い出したら、付け足してくわしくしていきましょう。

おわり	なか	はじめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>おまつりでみんなに見せた。</li> <li>みかさんがきれいだと言ってくれた。</li> <li>みんなでしゃしんをとった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おちばでようふくを作った。</li> <li>新聞紙に、はつばをはりつけた。</li> <li>たくやさんが、どんぐりをボタンにしようと言った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おちばとどんぐりをあつめた。</li> <li>学校じゅうの木の下を歩き回った。</li> <li>南門の近くで、いっばいになった。</li> </ul>

④ 記述

○事がらごとに段落を分けて書く。



同じ事がらのことは同じ段落に書こう。一番伝えたいことをくわしく書くには、何を付け足して書いたらいいかな。



手本となるモデルを示し、組み立てメモとのつながりを意識させることが大切です。(教科書の作品例)

⑤ 推敲

○まちがいがなければ読み返す。



声に出して読み返すとまちがいに気が付きやすいですね。  
句点(。)や読点(,)、かぎ(「」)は正しく使っていますか。1ます下げて段落分けをしていますか。



なおしたら、とっても分かりやすい文章になったよ。なおすってとっても大事なことだね。

⑥ 交流

○よいと思うところの感想を伝え合う。



学習後、学び方や自分に付いた書く力について振り返ったり、「書くこと」を好きになるようにがんばったことを十分認めたりすることが、とても大事ですね。

~のところがとってもおもしろいね。

~のところがすてきだな。ほくもまねしよう。

~のようすがよく分かるね。じょうずだね。

1ます下げて、「はじめ」「なか」「おわり」が分かるように書いているね。

【指導上の留意点】

・1年から6年までのどの学年でも、「課題設定」→「取材」→「構成」→「記述」→「推敲」→「交流」の流れを児童にも意識させるよう工夫する。

《参考》光村1下「いいこといっぱい 一年生」、光村3上「おもしろいもの見つけた」、光村4下「生活を見つめて」、光村5下「工夫して発信しよう」



イ 事例 2

段落相互の関係をとらえて、目的に応じた要点の抜き出し・文章の要約などの活動を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
二 5	読むこと	目的に応じて、段落相互の関係を考え、中心となる語をとらえて、内容を大きくまとめることができる。	読む能力

二 5	6 段落の	③ に入る、ふさわしい言葉を		
に書きましょう。				
この実験によって、チューリップは、 <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;"></span> 、花を開いたりとじたりするのだということが分かりました。				

正答例（準正答例）	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度のちがいを感じて</li> <li>・ 温かさと寒さが分かるので</li> <li>・ 温かさと寒さを感じて</li> <li>・ 温度の変化によって</li> <li>・ 温度が上がったり、下がったりすることによって など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るさと暗さを感じて</li> <li>・ 夜と朝で</li> <li>・ 温かさによって</li> <li>・ 暑さと寒さで</li> <li>・ 温度の温かさによって</li> </ul> <p>※文のつながり具合がおかしいものは、誤答とした。</p>	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
58.6% (28.5%)	33.9%	7.5%

② 指導改善に向けて

設問二 5 は、1 段落の「問いかけ」を受け、2 段落以降に 1 つ目の実験が行われていること、5 段落で 2 つ目の実験が行われていること、そして、6 段落でまとめられていること、これらの段落相互の関係を正しく読んだうえで、5 段落の中心となる語をとらえ、書きまとめる問題である。

誤答の多くが、5 段落の中心となる語をとらえていないものであった。原因として、段落相互の関係を正しく読む力がまだ十分ではないため、5 段落の中心となる語を見付けることができなかつたと思われる。

指導に当たっては、単元の導入に前の学年の説明文を振り返り、「問いかけ」と「答え」や「はじめ・中・終わり」の文章構成を確認したり、繰り返し出てくる大切な言葉を確認したりするなど、説明的な文章の既習事項を確認する指導を十分に行い、6 年間を通して学習を積み重ねる螺旋的な指導が必要である。

さらに、目的に応じて、文章を短くまとめて説明したり、書き抜いた言葉を使って自分で説明したりするなど、自分で文や文章をまとめる言語活動が必要である。

③ 改善事例 説明的な文章の学習（対象学年：主に 3 学年）

光村 3 下 「すがたをかえる大豆」

東書 3 年 「しぜんのかくし絵」「もうどう犬の訓練」

1 指導のねらい

- ・ 説明的な文章を読むなどの言語活動を通して、段落相互の関係、中心となる語をとらえたり、要約したりできるようにする。
- ・ 既習を生かして、説明的な文章の構成（「問いかけ」と「答え」のつながり、「はじめ・中・終わり」）をとらえることができるようにする。



## 2 具体例

学びを  
積み上げる



次の3点を確実に押さえてくださいね。

- ①学校全体で計画的に！
- ②各単元の学びを孤立させず、つなげていくこと！
- ③単元を貫く、付けたい力に適した言語活動の設定！



### ポイント4 【付けたい力を言語活動を通して指導】

単元名：「大事なことをたしかめよう」  
教材名：「すがたをかえる大豆」「食べ物がかせになろう」  
付けたい力：読むこと（1）イエ 書くこと（1）アイウ  
言語活動：大豆について書かれた文章を読み、説明の仕方をまとめる  
食品が姿を変えている事を説明する文章を書く

#### 一次 学習のめあてと学習活動の見直しをもつ。

「おどろいたな。大豆がいろいろな食べ物に変身していてびっくりしたよ。」  
「ほかにもびっくり変身を見つけて、食べ物はかせびっくり絵本を作ろうよ。」

#### 二次 「すがたをかえる大豆」を読んで、表にまとめて、説明の仕方を知ろう。

「大豆は、本当にたくさんの食べ物に変身していてびっくりしたね。」  
「ぼくは、変身のための工夫にも、おどろいたよ。」  
「わたしは、昔の人の知恵もすごいと思ったわ。」  
「まず、説明の仕方を表にまとめよう。びっくり絵本に使いそうだよ。」  
「段落ごとに中心となる大事な文を短くまとめたり接続語を見つけたりしよう。」  
「工夫の説明は、段落の1文目に書いてあるから、わたしたちも使ってみたいわ。」  
「分かりやすく表にまとめることができたね。この表を使って、絵本を作ろうよ。」

#### 三次 変身する食品を調べて、報告する文章を書く。

「今度は、食べ物がかせびっくり絵本を作ろうよ。」  
「わたしは、とうもろこしのびっくり変身を見つけたわ。」  
「ぼくは、牛乳。知らなかったから、すごいびっくり絵本が作れるよ。」  
「この前の表を生かして、接続語や中心となる文を使って段落ごとに書き分けよう。  
1枚目は問いかけを使うと分かりやすくなりそうだね。」

※留意点1：単元によっては、複数の言語活動となることがある。

※留意点2：絵に時間を要しないようにチラシやパンフレットの食品を切り取って使用するなどの工夫をし、文章を書く活動を重視する。

分かった！



できた！



使えた！



くりかえす



### ポイント3 【学習後、他教科等に活用】

T「総合的な学習の時間でまとめる時『問いかけ（話題提示）』『答え』や『はじめ・中・終わり』を使ってみましょう。」  
C「『はじめ・中・終わり』を使うと、分かりやすい文章になるね。これからも、どんどん使ってみたいな。」

### ポイント2 【3年1学期の学びを掲示】

T「『ありの行列』にも『問いかけ』『答え』はあるのかな。」  
C「あったよ。見つけたよ。」 C「『問いかけ』の説明もあるよ。」  
C「『はじめ・中・終わり』に分けられていて、分かりやすいよ。」  
T「みんなが学んだことを、次に使うために教室に掲示しましょう。」

らせん  
螺旋的に

子どもの言葉で  
学びをつなぐ



### ポイント1 【前の学年の確認】

T「2年生の国語で、勉強したことは何かな。」  
C「『サンゴの海の生きものたち』の説明文を勉強したよ。」  
C「説明文では、『問いかけ』『答え』を勉強したよ」  
T「よく覚えていたね。3年生の勉強でも使おうね。」

T…教師の言葉  
C…子どもの言葉

## 小学校第4学年 算数

平均正答率

74.9%

### (1) 領域・分野ごとの分析・考察

#### 【数と計算 (81.2%)】

- ：基本的な四則計算ができること [1]
- ：数や乗法九九について理解すること [2]
- ▼：減法の計算の工夫を読み取り、用いること [9]

#### 【基本的な四則計算】【乗法九九の理解】

設問1, 2(3)の「基本的な四則計算」「乗法九九の理解」については、いずれも85%以上の正答率で、これまでと同様、概ね良好である。「2位数×2位数(何十)の計算」についても概ね良好であるが、桁数が明らかに違う誤答が見られた。

苦手な児童に対しては、和、差、積、商の見通しや確かめを意識できるように具体的な場面での個別指導が大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1) 繰り上がりのない加法計算	96.9%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	87.7%
	(3) 2位数×2位数(何十)の計算	85.0%
	(4) 余りのある除法計算	89.1%
2	(3) 乗法九九の理解	94.2%

#### 【減法の計算の工夫】

設問9の正答率は51.1%であった。例示をもとに、その考えを用いて繰り下がりを使わないで工夫して計算できることを説明する問題である。「29を30」と考えることは概ね出来ているが、「43+1」のところを「43-1」「43+2」とする誤答が見られた。これは、示された考え方を理解し活用することに課題があるためと考えられる。

式から計算の仕方を読み取る活動や言葉や式などを関連させながら説明する活動を充実させ、工夫した計算方法を活用する指導が必要である。

設問番号	問題の内容	正答率
9	減法の計算の工夫	51.1%

#### 【量と測定 (61.4%)】

- ：時計の時刻から一定時間前の時刻を求めること [3(1)]
- ▼：身近なもののかさに関心を持ち、量感を伴って理解すること [3(2)]

#### 【時計の見方と時間の考え方】

設問3(1)については、昨年度はある時刻を起点として一定時間後の時刻を尋ねたが、本年度は一定時間前の時刻を尋ねた。正答率は81.8%と昨年度同様、概ね良好であった。

設問番号	問題の内容	正答率
3(1)	一定時間前の時刻	81.8%
3(2)	身近なかさの量感覚	36.8%

#### 【身近なかさの量感覚】

設問3(2)の正答率は36.8%であった。1ℓに満たないかさを「エ(1ℓます3つ分)」とする誤答が多かった。身近なかさについての量感を確かめることは、前年度に引き続き不十分である。これは、牛乳びんや牛乳パックは見慣れているものの、形として見ており、かさとしてのとらえが弱いからと考えられる。また、身近なかさを量感を伴って理解する経験が少ないからと考えられる。

これは課題事項であり、身の回りにある容器を用いて比較したり、測定したりするなどの作業的・体験的な活動を意図的に取り入れるようにして、かさという量感を豊かにする指導が重要である。

## 【図形 (67.2%)】

◇：箱の形を構成する面の位置関係について考えること〔8(2)〕

▽：球の直径について理解すること，円の半径を使って二等辺三角形を作図すること〔4〕

### 【円と球の性質】

設問4は，移行期の指導内容で3年生に追加されたものである。正答率は60%台で十分とはいえない。二等辺三角形の作図では，半径を使わずに作図したものが多かった。これは，各単元での学習は理解できていても，球の直径と箱の縦横の長さの関係，円と二等辺三角形の両方の性質の組み合わせなど，いくつか学習した事柄を関連させ活用する力が弱いと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(1) 球の直径の理解	67.1%
	(2) 円の半径を使った二等辺三角形の作図	62.6%
8	(1) 箱の形を構成する辺の数	62.6%
	(2) 箱の形を構成する面の位置	76.7%

図形の問題を解決する際には，既習の図形の構成要素や性質を関連させながら考える活動や，具体物を操作して考える活動などを通して，図形に対する感覚を豊かにしていく指導の工夫が大切である。

### 【箱の形の構成】

設問8(2)は76.7%と基準に到達している。これは，箱の面を紙に写し取ったり，紙の箱を切り開いたり，切り開いた形から箱を組み立てたりして，面と頂点の構成が実感を伴って理解されているからである。ただし，(1)の辺についての理解は，十分とはいえない。

箱の形の構成要素を確実に理解していくために，透明な箱を観察したり，実際に棒(辺)とジョイント(頂点)だけで箱の形を作ったりするなど，一層，実感を伴った理解を図る指導の充実が必要である。

## 【数量関係 (71.0%)】

○：二次元表から，特定項目の人数を求めることや，求め方を説明すること〔6〕

▼：棒グラフから項目間の関係を読み取り，説明すること〔10(2)〕

### 【二次元表の読み方】

設問6は2問とも正答率が80%を超え，概ね良好であり，昨年度の通過率と比較しても伸びている。二次元表を読み取り，人数の求め方を自分の言葉や式を使って表す力が徐々に定着してきているものと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
6	(1) 二次元表の読み方(特定項目の人数)	87.6%
	(2) 二次元表の読み方(人数の求め方)	81.6%
10	(2) 2つの棒グラフを比較しての読み取り	43.9%

### 【棒グラフの読み取り】

設問10(2)については「活用」を意識した問題として昨年度同様に出题した。正答率は43.9%と低く，昨年を若干下回った。依然として，棒グラフから項目間の関係を読み取り説明することは不十分である。「計算しなくてもわかる理由」を説明するときには，2つのグラフを見比べて述べる必要があり，「火曜日が少ないから」「火曜日は2冊と3冊」などの記述では，根拠の説明が曖昧である。判断の基準となる根拠を適切な言葉を使って説明する力は十分とはいえない。

数量の大きさの違いを一目でとらえられるという棒グラフの特徴を理解し，身の周りの事象を表やグラフで表す指導が大切である。その際，何を根拠に判断したのかを明確にして説明する活動や不十分な説明に言葉を補っていく活動が必要である。

## 指導改善のポイント

□実感を伴った活動を通して，数量や図形についての感覚を豊かにする指導を充実させること  
(→ 事例1)

□言葉，数，式，図，グラフ等を用いて，理由や根拠を明確にしなが筋道立てて説明する活動を重視すること  
(→ 事例2)

※ 下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

## (2) 改善に向けた指導事例


### ア 事例1

実感を伴った活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする指導を充実させること


#### ① 問題と解答の状況


設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3 (2)	量と測定	身近なもののかさに関心を持ち、量感を伴って理解している。	算数への関心・意欲・態度 数量や図形についての知識・理解

(2) 給食のときに飲んでいる牛乳を3本、1ℓますに入れました。正しい図は、どれですか。次のア～エから1つえらび、その記号を□に書きましょう。




ぼくの学校だと…



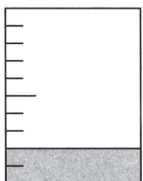


わたしの学校だと…



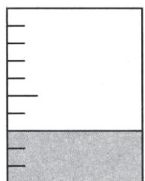
**ア**

1ℓます



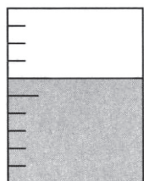
**イ**

1ℓます



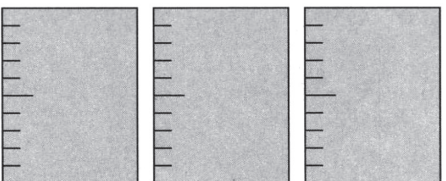
**ウ**

1ℓます



**エ**

1ℓます 1ℓます 1ℓます



(まよこから見た図)

正答例 (準正答例)	誤答例	
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エ</li> <li>・ イ</li> <li>・ ア</li> </ul>	
正答率 (準正答率) 36.8% (0.1%)	誤答率 61.7%	無解答率 1.4%

#### ② 指導改善に向けて

上記の問題については、誤答率(61.7%)が正答率(36.8%)を上回っている。誤答の多くは「エ」である。

児童にとって、給食時の牛乳ビンや牛乳パックは普段から見慣れているものであっても、かさとしての量のとらえや量感を伴った理解が十分ではなかった。そのため、牛乳ビン3本分(牛乳パック3個分)を1ℓます3つ分と安易にとらえてしまったのではないかと考えられる。

そこで、身の回りの入れ物の容積表示を進んで見付けたり、身の回りにある容器を用いてかさを予想してから測定したり、測定したものを大小比較したりするなどの作業的・体験的な活動を取り入れた指導の工夫が必要である。



### ③ 改善事例 第2学年「かさ」

#### 1 指導のねらい

- ・身の回りにあるもののかさについて、容器集めをしたり、実際に測定したりする活動を通して、測定技能の習熟を図り、かさの量感を身に付けさせる。

#### 2 具体例

- (1) かさ調べに意欲的に取り組むために、いろいろな入れ物のかさをはかりその大きさを比較する活動

### 入れ物の「かさ」ランキングをつくろう

※内容量の表示を隠し、かさの見当をつけてから測定することで、量感を身に付けることができる。

○いろいろな入れ物を集めて、ℓますやdlますでかさを調べる。

入れもの	よそう	つかうます	けっか
なべ	3ℓ	1ℓます	3ℓ2dl



どのくらいか予想してからはかってみよう。

○入れ物ランキングをつくろう。



○内容量の表示でもかさを確かめる。

もっと大きなかさ、もっと小さなかさのものはあるかな？

- (2) 入れ物を選び、決められたかさの水をくみ取る活動

### ぴったいはかろうゲーム

○かさを調べた入れ物を使って、カードに書かれたかさをはかり取る。

7 dl

1 ℓ

1 ℓ 3 dl

5 dl

1 ℓ

2 dl

身の回りの入れ物

牛乳びんなら、3本と半分だよ。

でも、ペットボトルと牛乳びんを合わせたらちょうどだよ。

牛乳びんは2 dlだから、5回入れよう。

へーっ！牛乳パックは牛乳びんが5本分ってことだね。

牛乳パックとジュースの缶でどうかな。

リットルますの外側にめもり隠しの紙を貼ったり、パスタ保存容器のような太さが一定でめもりのない容器を使ったりするとよい。

#### ゲームの進め方

- ①かさが書かれたカードを1枚引く。
- ②身近な容器を使って、透明容器にできるだけぴったりのかさの水をくみ取る。
- ③リットルますで確かめる。

イ 事例2 言葉, 数, 式, 図, グラフ等を用いて, 理由や根拠を明確にしながら筋道立てて説明する活動を重視すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
9	数と計算	減法の計算の工夫を読み取り, 用いることができる。	数学的な考え方 数量や図形についての表現・処理


9 さとしさんは,  $63 - 28$  の答えを暗算でもとめるために, 次のような計算のくふうをしました。

さとしさんの計算のくふう

$$28 \text{ を } 30 \text{ とみて}$$

$$63 - 30 = 33$$

$$33 + 2 = 35$$



さとしさんの計算のくふうを使って,  $73 - 29$  の答えを暗算でもとめます。そのもとめ方を  の中に, さとしさんのように言葉と式で書きましょう。

73 - 29 の計算のくふう

正答例 (準正答例)	誤答例	
29 を 30 とみて $73 - 30 = 43$ $43 + 1 = 44$	・ 29 を 30 とみて $73 - 30 = 43$ $43 - 1 = 42$ ・ 29 を 30 とみて $73 - 30 = 43$ $43 + 2 = 45$ ・ 73 を 70 とみて	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
51.1% (6.6%)	41.2%	7.8%

② 指導改善に向けて

誤答例を分析すると, 29 を 30 とみて引くことはできているが, 次に  $43 + 1$  とするところ  $43 - 1$  という計算になっている誤答が多い。これは, 29 を 30 とみたので, その差である 1 を  $73 - 30$  の答えから引くという考えで, 多く引きすぎた数を加えなければならないというさとしさんの計算の工夫と, それを他の場合でも使える工夫として理解できていないからだと考えられる。

そこで, 今後の指導に当たっては, 与えられた式から読み取った計算の工夫を式・図・言葉を使って説明したり, その工夫をいろいろな場合に適応させたりする学習活動を一層充実させていく必要がある。

### ③ 改善事例 第3学年「暗算」

#### 1 指導のねらい

- ・繰り下がりを使わないで、百から2位数を引く減法の計算の仕方を式から読み取ることで、その考え方をういて工夫して暗算をすることができるようにする。
- ・計算の仕方を説明し合う活動を通して、式・図・言葉を用いた数学的な表現力の向上を図る。

#### 2 具体例

##### (1) 式から計算の仕方を読み取る指導

100 - 38の暗算のしかたを考えよう。

繰り下がりを使わなくても、計算できるよ。

$$100 - 38 = 100 - 40 + 2 = 62$$

たろうくん

◆式からたろうくんの考え方を話し合う。

【言葉で】



たろうくんは、38を40と考えて、100からひいて、ひきすぎた2をたしてもどしてあげたんだ。100 - 40は繰り下がらないよ。

はなこさん

【図で】



②2をもどす

+2

-40

①100から40をひく

関連させる

◆計算の仕方を一般化する。



ひく数を何十にしてからひくと、繰り下がらないのだね。他の計算でもできるかな。

##### (2) 考え方を適用し、説明する指導

100 - 69の暗算を繰り下がりのない計算の仕方で行おう。

100 - 何十にしてやってみよう。

$$100 - 69 = 100 - 70 + 1 = 31$$

問題ビンゴをしよう！

100 - 87	100 - 19	100 - 21
鈴木		
100 - 49	100 - 38	100 - 28
	☆	
100 - 69	100 - 42	100 - 81
	山口	

◆式を説明し合う活動を取り入れる。

##### 方法1

ペアやグループで考えを説明し合う活動。

##### 方法2

ペアで相手の式を、説明する活動。

##### 方法3

ペアやグループで、100 - 2位数の問題を出し合う活動。

##### 方法4 (問題ビンゴ)

違う問題をやっている友だちの式をみて、考えを説明し、サインを集める活動。





小学校 第6学年  
「社会」「理科」

## 小学校第6学年 社会

平均正答率

73.2%

### (1) 領域・分野ごとの分析・考察

#### 【地域学習 (75.2%)】

- ：地図の基礎的な要素である主な地図記号や八方位を理解すること [5(1)(2)]
- ：グラフを読み取り、節水の工夫を考えること [4(2)(3)]
- ▽：等高線の意味を理解すること [5(3)]
- ▼：地図帳を活用し、石川県の地理的概要について理解すること [1(2)(4)(5)]

#### 【地図の基礎的な要素である主な地図記号や八方位を理解すること】

設問5(1)(2)①は、18年度(国)と比べ、八方位は正答率を16.4ポイント、地図記号(工場)は4.9ポイント上回り、概ね良好である。また、新聞である設問5(2)②の地図記号(学校)は90%を越えており、良好である。

設問番号	問題の内容	正答率	
5	(1)	八方位	83.4%
	(2)①	地図記号(工場)	86.3%
	(2)②	地図記号(学校)	94.3%

#### 【グラフを読み取り、節水の工夫を考えること】

設問4(2)(3)は、新学習指導要領に加えられた「節水や節電などの資源の有効な利用」の視点を取り入れた新聞である。(2)は正答率84.7%、(3)は正答率84.8%と、どちらも概ね良好である。

設問番号	問題の内容	正答率	
4	(2)	1人あたりの水の使用量の変化	84.7%
	(3)	日常生活でできる節水の工夫	84.8%

#### 【地図帳を活用し、石川県の地理的概要について理解すること】

設問1(2)(4)では、(2)の正答率が63.5%、(4)の正答率が61.1%と、どちらも十分とはいえない。特に、位置関係を求める問題では、20年度と比べると、正答率は16.8ポイント下回っている。さらに、設問1(5)では、正答率38.0%と不十分である。3、4年生で学習した知識や技能が、その後の学習に生かされず、定着が図られていないことが原因と考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
1	(2)	石川県の地形の位置関係	63.5%
	(4)	石川県の市町の位置の検索	61.1%
	(5)	石川県の町の数	38.0%

指導に当たっては、次のような学習を充実させ、石川県の地理的概要について理解させていくことが大切である。

- ① 地図帳をもとに、石川県と他県との位置関係を表したり、説明したりする学習
- ② 地図帳や各種の資料を効果的に活用し、石川県の様子や特色を白地図に書き表す作業学習
- ③ 高学年での学習内容に、石川県の地理的概要を関連付けた学習

(H20・H21 指導資料集 指導事例1 参照)

#### 【等高線の意味を理解すること】

設問5(3)は、正答率が60.4%と18年度(国)の類似問題と比べて2.7ポイント下回っており、十分とはいえない。

設問番号	問題の内容	正答率	
5	(3)	等高線の意味	60.4%

4年生で等高線を十分に理解させ、繰り返し学習するなどして定着を図るとともに、5年生で学習する「農業での土地利用の様子」で活用させるなど、確かな理解を図る必要がある。

## 【産業 (70.4%)】

◎：食の安全性について、資料から読み取ること [3(2)]

▼：資料をもとに、日本の農業の問題について自分の考えをまとめること [3(3)②]

### 【食の安全性について、資料から読み取ること】

設問3(2)は、1つの資料を正しく読み取り、適切な用語を選ぶ問題である。正答率90.4%と良好である。

設問番号	問題の内容	正答率
3	(2) 食の安全性	90.4%

### 【資料をもとに、日本の農業の問題について自分の考えをまとめること】

設問3(3)②は、複数の資料をもとに、日本の食料生産の問題点を考え、まとめる問題である。正答率34.3%と不十分である。資料に書かれていることをそのまま抜き出してしまふ誤答が多かった。資料を正しく読み取り、問題点を見付け、まとめる力が身に付いていないことが原因であると考えられる。

学習の振り返り等で、調べたり、学習したりして分かったことをまとめるだけではなく、社会的事象やその問題点に対して自分なりの意見や考えをまとめ、表現していく場を設定する必要がある。

## 【国土 (71.2%)】

▽：世界の主な大陸や海洋と、我が国の国土との位置関係を理解すること [2(1)③, 2(2)]

### 【世界の主な大陸や海洋と、我が国の国土との位置関係を理解すること】

設問2(1)③は、正答率が59.3%、無解答率が10.6%である。21年度の類似問題では、正答率が47.0%、無解答率が27.8%であり、改善の兆しが見られるが、依然として緯度や経度に関する理解が不十分であり、課題である。

設問2(2)④⑤⑥は、新学習指導要領の移行措置の内容である「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」を問う新聞である。④は正答率60.8%、⑤は正答率67.0%、⑥は66.1%と十分とはいえない。

引き続き、地図帳や地球儀などで調べ、白地図などに書き表すことにより、我が国の国土を構成する主な島の名称と位置や日本の東西南北の端などを、緯度や経度を用いて表したり説明したりする学習をより丁寧に行い、理解の定着を図る必要がある。

(H21「分析・考察」指導事例1 参照)

## 指導改善のポイント

- 各種の資料を活用し、自分の考えをまとめ表現する活動を充実させること (→ 事例1)
- 地図帳を活用し、地理的概要についての理解を図ること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

## (2) 改善に向けた指導事例

### ア 事例1 各種の資料を活用し、自分の考えをまとめ表現する活動を充実させること

#### ① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3 (3) ②	産業と国土	主な自給率の変化や低下の理由を調べることで、日本の食料生産がかかえている問題に興味をもち、日本の農業の問題について自分の考えをもつことができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断

3 太郎さんと花子さんは、「これからの日本の食料生産」について調べたことを発表しました。あとの問いに答えましょう。

**太郎さん**

①の資料から、日本の食料自給率は1970年から年々下がり続け、2005年では約40%になっていることが分かります。また、②の資料から、日本の食料品の多くは、1965年と比べると、輸入量が増えていて、特に、魚介類は約500万tも増えていることが分かります。外国から輸入される食料品の中には、安く買うことができるものがあり、いろいろな種類があるので助かります。このような輸入食料品は、自給率の低い日本の食料生産をおぎなうことで、私たちの食卓を豊かにしてくれます。

**花子さん**

③の資料からは、日本の主な食料の自給率は、日本の主食である米をふくめ、100%を下回っていることが分かります。特に、小麦がとて低いです。また、②の資料から、自給率の低い小麦の輸入量が多いことが分かります。このように日本は、自給率の低い食料を輸入にたよっていることが分かります。スーパーマーケットのおじさんの説明では、外国から輸入される食料品の中には、農作物を生産するときだけではなく、輸入のために海をこえて運ぶときにも、いたまなように農薬が使われていることがあるそうです。農薬の量によっては、人間のからだや環境に悪い影響を与えることもあるので、十分注意する必要があると言っていました。

資料2 農業で働く人の数の変化

資料2を見てください。農業で働く人が年々減ってきています。2005年の働く人の数は、1970年の働く人の数の約(⑤)分の1になっています。特に、若い人の数が減っていることが分かります。

太郎さん

③ 太郎さんは、資料2を使って、次のように意見をつけ加えました。

① ⑥にあてはまる数字を□に書きましょう。 □

② 資料2と太郎さんの意見から、日本の食料生産について考えられる問題点を、□に書きましょう。

正答例 (準正答例)	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業で働く人が減ると、日本の食料生産が減ると考えられる。</li> <li>日本の食料生産が減り、自給率がさらに下がると考えられる。</li> <li>農業で働く人が減ると、農地が減ることが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業で働く人が減っている。特に若い人の数が減っている。(太郎さんの意見と同じ内容)</li> <li>若い人が減っているため、いずれいなくなってしまう。(日本の食料生産の問題に触れられていない)</li> </ul>	
<p>正答率 (準正答率)</p> <p>34.3% (13.1%)</p>	<p>誤答率</p> <p>55.1%</p>	<p>無解答率</p> <p>10.5%</p>

#### ② 指導改善に向けて

誤答例の多くは太郎さんの意見と同内容のものや日本の食料生産の問題に触れていないものであった。これはグラフを正しく読みとったり、グラフと太郎さんの意見を関連付けたりしながら、日本の食料生産における課題について自分なりの考えを持つことができなかつたことが原因である。

こうした思考力・判断力・表現力等を育てるには、観察・調査や各種の資料活用を通して必要な情報を入手し、的確に記録するとともに、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習を進める必要がある。また、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合い、互いの考えを深めていく学習の充実を図らなければならない。

③ 改善事例 第5学年「我が国の工業生産」

1 指導のねらい

- 工業生産の様子と国民生活とを関連付けて、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、これまで学習した特色から、課題について自分の考えをまとめ、適切に表現できるようにする。

2 具体例 【課題】

《日本の工業生産の特色や工業生産の課題について  
わかったことや考えたことを新聞にまとめる》

日本の工業の特色を新聞にまとめよう

問題意識を高める  
資料を！

- 「不思議だな」
- 「すごいな」
- 「なぜだろう」

【単元計画例（24時間扱い）】

- 単元導入（2時間）
- 自動車をつくる工業（9時間）
- 工業地域と工業生産（6時間）
- 工業生産と貿易（5時間）
- 学習のまとめ（2時間 本時 2/2）

「単元を貫く目標」の意識を！

- 単元導入時に、単元のまとめの活動として「日本の工業新聞」を作成し日本の工業の特色や課題について自分の考えをまとめることを意識付けておく。

（キーワード）

- さかんな工業
- 工業地域
- 工業製品の輸出入
- 社会や消費者のニーズ
- 加工貿易
- 関連工場
- 中小工場
- 工業技術

既習を想起させ、自分の考えを持たせるための手立て

学び方教室

- だれに読んでもらうか考える。【相手意識】
- いくつかのテーマに分けて、それぞれに見出しを付ける。
- 上にあるキーワードを手がかりに記事を作ってもよい。
- 分かったことと、自分が考えたことは区別して書く。
- 地図や絵、グラフなどを使って分かりやすく説明する。
- 「社説」のらんをつくり、日本の工業生産に対する自分の考えをまとめる。

社説

習得→活用

【社説】「がんばれ日本の工業」  
今は人や環境に優しい製品が求められているから、日本の技術力をもっと高めて、こうした製品をたくさんつくりたい。そうすれば外国にも製品がたくさん売れるし、日本だけでなく世界中の人や環境のためにもなると思う。

【社説】「北陸工業地域のひみつ」

日本の工業地帯の多くは貿易に便利な太平洋側ある。北陸は日本海側なのに工業地域になったのはどんな条件を生かしているのだろう。中国や韓国との発展と関係しているか調べてみたい。

活用→探究

**環境にやさしい自動車づくり**

環境にやさしい自動車として、ハイブリッドカーが開発され、今では、たくさんのハイブリッドカーが走るようになった。電気とガソリンを使って、効率の良い走りをするので、ガソリンも節約できるし、排気ガスを減らすこともできる。今では、家庭用の電源から電気をためて走ることで走るプラグインハイブリッドカーも発売されている。

また、水素と酸素から電気をつくり、水だけを排出する燃料電池自動車の開発も進められている。

いろいろな工夫をして、自動車がつくりだされているんだね。

**「太平洋ベルト」**

日本の工場は海沿いに広がっている

日本の工場が集まっているところは、海沿いが多いことが分かった。特に京浜・中京・阪神工業地帯などの集まる太平洋ベルトが中心となっている。そして、今では日本海側や内陸にも広がっている。これは、道路が整備されるなど、物流がさかんになったからである。

工場も様々な条件を生かしているんだね。

**すぐれた技術を生かした中小工場**

京浜工業地帯にある東京都大田区は、中小工場が多く集まった地域です。ここでは、高い技術を生かした工場が集まっています。

大工場と中小工場とが関連しているんだね。

**海外との関わりが欠かせない「加工貿易」**

日本の貿易は主に原料を輸入し、製品を輸出している「加工貿易」を行っている。今は、外国からも製品を輸入している。また、外国で日本の技術を生かした生産も行われている。

**【社説】 外国に頼る日本の工業生産**

日本の自動車は多くの国に輸出されていますが、燃料や原材料は外国からの輸入に頼っています。もし輸入できなくなったら、生産もできなくなります。だから、日本の工業がもっとさかんになるには、外国と仲良くしていくことと、外国も日本の自動車が買えるように豊かな国になることが必要だと思います。

※「日本の食料生産」に関する具体的な学習事例は、H21「分析・考察」指導事例を参照のこと。



## イ 事例2 地図帳を活用し、地理的概要についての理解を図ること

### ① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1 (2)	地域学習	石川県全体の地形などの概要、産業、交通網の様子や主な都市の位置を理解しているとともに、地図帳や白地図から必要な情報を検索することができる。	観察・資料活用の技能・表現 社会的事象についての知識・理解
1 (4)		地図帳の索引から目的の地名を検索し、白地図に表すことができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 観察・資料活用の技能・表現

1 七尾市に住んでいる太郎さんとお父さんが、車で世界遺産に登録されている白川郷に行くことになりました。学校で使っている地図帳の31～32ページを参考にして、あとの問いに答えましょう。

太郎：「お父さん、白川郷は何県にあるの。」

お父さん：「まず、地図帳で石川県で一番高い山、白山を探してごらん。次に、白山から北東の方向を見てごらん。世界文化遺産を示す緑色の記号があるね。」

太郎：「あった。( ① ) 県だよ。それじゃ、お父さん、七尾市から白川郷までは車でどのようにして行くの。」

お父さん：「七尾市から有料道路に乗り、石川県の県庁がある( ② ) 市の方に向かって走るんだよ。有料道路を走って羽咋市を通りすぎると④途中で日本海が見えるよ。そのあと、北陸自動車道という高速道路に乗って石川県のとなりの( ③ ) 県に向かうんだよ。このあとは、太郎が言ってごらん。」

太郎：「( ③ ) 県に入り、( ④ ) 自動車道という高速道路に乗りかえて、南の方に走るんだね。途中で世界遺産である五箇山を通りすぎ、( ① ) 県に入ると白川郷に着くんだね。」

お父さん：「そうだね。地図帳で調べるといろんなことが分かるね。」

(2) 下線部④について、日本海は、有料道路を走っている太郎さんの車の中から見ると左右のどちら側に見えますか。□に書きましょう。



(4) 次の□の内容にあてはまる市を、右の白地図から探し、その市全体をえんぴつでぬりつぶしましょう。

- ・地図帳の「おもな地名さくいん」を調べたさくいん記号は、(31ア4)です。
- ・その市には空港があります。



正答例 (準正答例)		誤答例		
1 (2) 右	1 (2) 左, 西			
(4) 小松市全体を塗る	(4) 加賀市, 能美市, 白山市			
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率		
1 (2) 63.5%	1 (2) 33.7%	2.8%		
(4) 61.1% (0.2%)	(4) 31.0%	7.9%		

### ② 指導改善に向けて

各問の解答状況と誤答の状況の原因は、県内における自分たちの市(町)及び我が国における自分たちの県の地理的位置の習得が図られていないことにある。

指導に当たっては、県の地図や地図帳を十分に活用することが大切である。例えば、地図から自分たちの市や県を見付ける活動、市や県の位置を言い表す活動、47都道府県の名称と位置を地図帳で確かめ、その名称を白地図に書き表す活動などが考えられる。さらに、これらを繰り返し学習したり、3、4年生以降の学習にも関連付けた学習の場を設定し、確かな知識にする必要がある。

### ③ 改善事例 5 学年「わたしたちの生活と食料生産」

#### 1 指導のねらい

我が国の農業について、野菜の生産や生産地と輸送の面での工夫を3, 4年生で学習した知識・技能を生かし、地図帳や資料などを活用して調べ、農業の盛んな地域が、国民の食生活を支えていることを考える。

#### 2 具体例

##### 農業のさかんな地域と石川県のつながいを考えよう

【課題】《野菜づくりのさかんな地域から石川県にとどくまでのルートや生産地の特色から自分たちの食生活を考えよう》

##### 学習の流れ

- ①地域で売られている野菜の生産地を調べ、その生産地から石川県まで、新鮮な野菜がどのようなルートで運ばれてきたかを予想し、地図帳や資料を使って調べる。
- ②野菜づくりの特色や、生産地、生産地から石川県までのルートを地図帳や統計などの資料から調べ、次のキーワードを使ってワークシートにまとめよう。

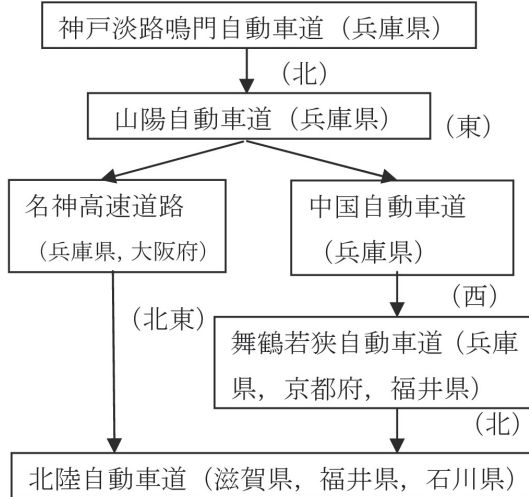
##### 【単元計画（9時間扱い）】

- ・単元導入（1時間）
- ・食料生産のさかんな地域（5時間）
- ・・・・本時
- ・これからの食料生産（2時間）
- ・学習のまとめ（1時間）

#### ワークシート（例）

《キーワード》 \*交通網 \*八方位 \*通過する県名

##### ■（兵庫県）の（たまねぎ）が石川県にとどくルート



##### ■野菜づくりの特色

兵庫県のたまねぎの生産は、全国第3位。温暖な気候を利用して生産している。特長は甘みが強い。

##### 【別紙】白地図



③調べたことをキーワードと白地図を使って伝え合う。



兵庫県で生産されたたまねぎの運ばれるルートは、この神戸淡路鳴門自動車道を北の方角に進み、山陽自動車道に入ります。それから、東の方角に進み、・・・・・・（\*白地図を指しながら、伝える。）

④分かったことを出し合い、まとめる。

【まとめ】 農業のさかんな地域がわたしたちの食生活を支えてくれている。また、生産されている野菜は、その地域の気候や地形などの特色を生かして生産されている。

※ この他に、果物や畜産物、水産業などについても同様な学習が展開できる。5年生の学習单元でも3, 4年生で学んだ石川県の地理的概要と関連付けたり、地図帳や白地図を活用したりする場を設定することが、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、より確かな知識となる。

(1) 領域・分野ごとの分析・考察  
【生物とその環境 (67.0%)】

- ◎：メダカの卵の変化について理解すること [5(3)]  
▽：昆虫の体のつくりについて理解すること [1(3)]  
▼：モンシロチョウの卵の大きさやメダカの雌雄の違いについて理解すること [1(1), 5(1)]

【メダカの卵の変化について理解すること】

17年度の類似問題同様、正答率は90%を越えている。メダカの卵の変化についての理解は良好である。

設問番号	問題の内容	正答率
5	(3) メダカの卵の変化	92.6%

【昆虫の体のつくりについて理解すること】

正答率は64.5%であり、21年度の類似問題を約13ポイント上回ったが、昆虫の体のつくりの理解については依然、十分とはいえず、「胴」「尻」「足」「羽」などの語を含む誤答が多い。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(3) 昆虫の体のつくり	64.5%

いくつかの昆虫を比較することを通して体のつくりの共通性をよく理解させるとともに、「頭」「胸」「腹」という用語を使用して考えたり説明したりする学習活動を、より一層充実させることが大切である。

(H19 指導資料集 指導事例1 参照)

【モンシロチョウの卵の大きさやメダカの雌雄の違いについて理解すること】

正答率はいずれも60%を下回り、モンシロチョウの卵の大きさやメダカの雌雄の違いについての理解は不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1) モンシロチョウの卵の大きさ	59.6%
5	(1) メダカの雌雄の形状の違い	43.6%

これは、実物に触れる機会や実物を観察する機会が少ないことや、写真や映像等の資料を使った学習の際、実際の大きさと拡大して観察している時の大きさの違いを、児童に意識させていないことなどが原因だと考えられる。

モンシロチョウの卵やメダカなど、実物に触れる機会を十分に設けるとともに、視点を明確にした観察を行うなど体験的な活動を一層充実させ、実感を伴った理解ができるよう指導の工夫を図ることが必要である。

【物質とエネルギー (61.8%)】

- ：ろ過に必要な器具を選択すること [6(2)]  
◇：水に物が溶けても全体の質量は変わらないことについて理解すること [6(1)]  
▼：正確なデータを得るための実験の技能を身に付けること [3(1)]  
▼：閉じ込められた空気と水の体積変化について理解すること [2(1)]

【水に物が溶けても全体の質量は変わらないことについての理解】

この問題は水溶液全体の質量変化を問う問題である。類似問題の正答率は、15年度が57.0%、21年度が68.4%であった。今年度は、15年度を約17ポイント上回り基準に到達している。

設問番号	問題の内容	正答率
6	(1) 食塩を溶かしたときの水溶液の全体の質量の変化	73.8%

引き続き、定量的な実験を通して、ものを溶かした後の質量保存についての見方、考え方を深める指導を充実させていくことが大切である。



### 【正確なデータを得るための実験の技能を身に付けること】

この問題の正答率は30.2%であり、全設問中最も低い。

設問番号	問題の内容	正答率
3	(1) 正確なデータを得るための実験方法	30.2%

実験の方法や手順、操作について、その意味を理解しないまま実験を行っていることが原因だと考えられる。

問題解決の過程に沿った学習を重視するとともに、予想や仮説を確かめるための実験方法を考えて説明したり、実験の手順や操作の意味を考えたりする学習をより一層重視する必要がある。

### 【閉じ込められた空気と水の体積変化について理解すること】

正答率は48.3%であり、閉じ込めた空気と水の体積変化についての理解は不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
2	(1) 閉じ込めた空気と水の体積変化	48.3%

空気は圧すと縮み、水は圧しても縮まないという体験的な活動をより一層充実させるとともに、空気と水を一緒に入れて圧したときの体積変化について考えてみるなど、既習事項を生かして思考する場面を学習活動の中に意図的に設定していく必要がある。

### 【地球と宇宙(66.8%)】

◇：上流と下流の石の大きさや形の違いについて理解すること [4(1)]

▼：降雨と川の増水について関係付けて考えること [4(3)]

#### 【降雨と川の増水について関係付けて考えること】

正答率は46.9%であり、降雨と川の増水について関係付けて考えることについては不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(3) 降雨と川の増水	46.9%

誤答からは、川が増水した原因を川の「上流」の降雨と関係付けられないという課題がうかがえる。指導に当たっては、身の回りの自然の事物・現象を学んだことと関連付けて考えさせたり、学んだことを生活とのかかわりの中で見直したりする学習活動を重視する必要がある。

### 【月の動き方についての理解】

この問題は13年度の国の調査と同問である。本県の基礎学力調査において、過去3回にわたって出題されたが、3回とも大きな課題が見られたものである。しかし、出題の度に徐々に正答率が上昇し、今年度の調査において、国の調査の正答率と同程度に達した。(下表参照)

設問番号	問題の内容	H13(国)	H15	H18	H20	H22
7	(1) 西の空にある半月の動き	58.1%	43.0%	44.5%	56.3%	58.3%
	(2) 東の空にある満月の動き	85.8%	65.6%	73.2%	72.7%	85.2%
	(3) 観測結果からの月の動き	73.1%	57.3%	60.5%	66.4%	77.3%

これは、実際に月を観察する機会を多くもったり、映像や模型などを活用し、児童に月の動き方のイメージをつかませたりするような指導の工夫がなされてきたことによるものと考えられる。

今後も体験的な学習の充実を図るとともに、観察記録から月の動きの規則性について考察する学習活動を大切にしていける必要がある。 (H18 指導資料集 指導事例2, H21「分析・考察」事例1参照)

#### 指導改善のポイント

- 学んだことと日常生活とを関連付けた学習活動を重視し、実感を伴った理解を図ること
- 問題解決のための実験方法を考えたり、説明したりする学習活動を充実させること  
(→ 事例1)
- 観察、実験などの具体的な体験を通して、科学的な見方、考え方を深める指導を充実させること  
(→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

## (2) 改善に向けた指導事例

### ア 事例1

問題解決のための実験方法を考えたり、説明したりする学習活動を充実させること

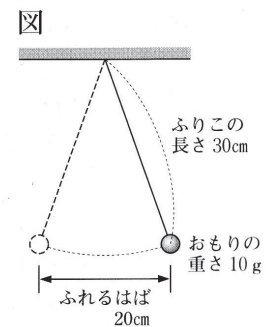
#### ① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3 (1)	物質とエネルギー	信頼できる結果を得るための適切な技能を身に付けている。	自然事象への関心・意欲・態度 観察・実験の技能・表現

3 太郎さんは、1往復する時間がちょうど1秒になるような振りこをつくらうと考えました。そこで、図のような振りこをつくり、次のように調べました。

#### 振りこが1往復する時間の求め方

- ① 振りこが10往復する時間を3回はかる。
- ② 3回分の時間を合計して3でわる。
- ③ ②で求めた数を10でわって1往復する時間を求める。



(1) 1往復の時間を求めるために、10往復する時間を1回ではなく、なぜ3回はかるのですか。その理由を書きましょう。

正答例（準正答例）	誤答例	
10往復の時間を正確に求めることができるから。 (1往復の時間を正確に求めることができるから。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (3回はかって) 平均を求めるため。</li> <li>・ (合計を割って) 往復する時間を求めるため。</li> </ul>	
正答率（準正答率） 30.2% (5.6%)	誤答率 65.9%	無解答率 3.9%

#### ② 指導改善に向けて

この設問は、全設問中最も正答率が低い。児童にとって問われている意図を的確に捉えることが難しかったようで、誤答例をみると「(3回はかって) 平均を求めるため」のように方法の途中経過(手順)を述べたものが多い。平均をとる理由である「正確な数値データを得るため」という内容に触れている児童は、全体の約3割であった。

指導に当たっては、実験方法が課題を解決するために的確であるかどうかを検討したり、実験で得られた結果の確からしさを吟味したりする場を設定することが重要である。実験方法を計画したり検討したりする活動は、その後の探究を進めていく主体性をはぐくむとともに、結果を予想や仮説に照らして吟味する考察活動を充実させることにつながるといえる。

また、教科の枠を超えて、普段から正確な問いと答えの呼応を児童に求めることも大切である。

### ③ 改善事例 第5学年「ふりこの運動」

#### 1 指導のねらい

ふりこのきまりを見出すために、誤差や平均の意味を理解して正しい手順で実験を行うことができるようにする。

#### 2 具体例

##### ふりこのきまりをみつける実験の方法を考えよう

##### 活動1：ストップウォッチで短い時間をはかってみよう

\* ストップウォッチの操作に慣れさせ、実験を正確に行おうとする意識をもたせる。

##### ① ぴったり1秒をはかってみよう（一人一人）

➡ 「1.2秒」「1.4秒」「0.89秒」…「ぴったり1秒にするのは、むずかしい。」

##### ② 一斉に「スタート」「ストップ」の合図で同じ時間をはかってみよう。

➡ 「同じ合図でやっても、はかる人によってずいぶん差がある。」

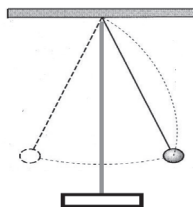


##### 同じ実験ではストップウォッチ役は変えないようにしましょう。

##### 活動2：1往復の時間をはかってみよう

\* 測定誤差が出ることを体験することにより、複数回測定し平均を求める必要感をもたせる。

糸の長さ …30 cm  
おもりの重さ …10g  
ふれるはば …20 cm



※条件を全て同じにすれば、同じ数値が出るのではないかという見通しをもたせて試しの実験をさせる。

##### ① 1往復の時間をはかろう

1回目	2回目	3回目
1. 2 5	1. 3 2	1. 4 4

##### 10往復した時間から1往復を求めよう。

「けっこう差があるな。」  
「1往復では、はかりにくいな。」

##### ② 10往復の時間をはかって、1往復の時間を求めよう

1班	2班	3班	4班	5班
1. 2 4	1. 1 9	1. 2 5	1. 2 7	1. 1 4

「さっきより数字の差が小さくなった。でも、小数第2位を四捨五入すると班によって値が違ってくるなあ。」



##### 10往復を3回はかかって平均を出すと、より正確な結果が出せそうだ。

##### ③ 10往復の時間を3回はかかって、1往復の時間を求めよう

1班	2班	3班	4班	5班
1. 2 1	1. 2 0	1. 2 2	1. 2 3	1. 1 9

「どの班もほぼ同じ結果になった。」



※正確な数値を出すためには、複数回行って平均を求めるとよいことを実感させる。一見遠回りのようであるが、誤差が出る事実を体験することにより、平均を求める必要感がうまれる。

イ 事例2

観察、実験などの具体的な体験を通して、科学的な見方、考え方を深める指導を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (1)	生物とその環境	メダカの雌雄の形状のちがいを理解している。	自然事象についての知識・理解

5 太郎さんは、メダカを飼って、観察しました。次の問いに答えましょう。 図1

(1) 太郎さんは、図1のメダカを見て、メスだと考えました。そのように考えた理由を書きましょう。



正答例（準正答例）	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・背びれに切れこみがないから。</li> <li>・しりびれのうしろが短いから。</li> <li>・はらがふくれているから。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひれの形が（オスと）ちがうから。</li> <li>・ひれが丸いから/ひれが大きいから。 など</li> <li>・ひれ（しりびれ）が平行四辺形だから。</li> </ul>	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
43.6% (2.0%)	53.8%	2.6%

② 指導改善に向けて

メダカの雌雄は「背びれ」及び「しりびれ」の形状の違いで見分けられる。

誤答例をみると「ひれ」としか記述せず、どのひれのことを指すのかわからないものや「ひれ(しりびれ)が平行四辺形だから」のようにオスの形状について記述しているものが多い。これは、学習するにあたって写真や映像等の資料を中心に扱い、雌雄の形状の違いやひれの名称等、児童に実感を伴って理解されていないことが一因と考えられる。

指導に当たっては、教科書等の図に書かれているメダカの雌雄の形状の違いを、観察という具体的な体験を通して確かめさせることで、実感を伴った理解を促すことが必要である。また、「背びれ（しりびれ）が・・・だから、このメダカはメス（オス）だ」というように、科学用語を正しく使い、判断した根拠を明確に表現させる指導も大切である。

③ 改善事例 第5学年「メダカのたんじょう」

1 指導のねらい

- ・メダカの雌雄の形状の違いを理解するとともに、メダカを観察し雌雄を判断できるようにする。

## 2 具体例

### (1) 導入場面

- ① メダカを飼育する際、産卵し増えてほしいという願いを児童にもたせるようにする。  
(産卵させるためには雌雄のメダカを同じ水槽に入れなければならない。→雌雄を見分けるといった必要感をもたせる。)
- ② 教科書等を参考にメダカの雌雄の形状の違いを知る。
- ③ メダカの雌雄を判別し、水槽に入れる。

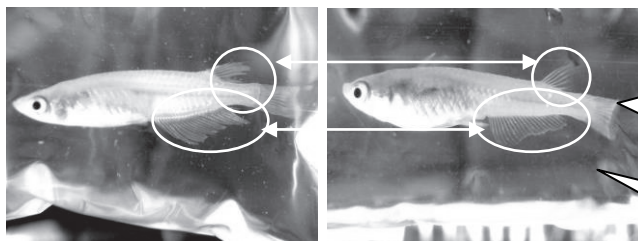
\*小グループに分けて飼育する場合はペットボトル水槽を利用することも簡便。

### (2) 観察場面

生きているメダカの観察を通して、雌雄の形状の違いを確認することが実感を伴った理解につながる。教科書等の図をもとに雌雄の形状の違いが背びれとしりびれにあることを知ってから、視点を明確にして観察にのぞむことも一つの方法である。

水槽内ではメダカが動き回るため、ひれの形状の違いを見分けることは難しいこともある。メダカを「チャック付ポリ袋」に入れると動きが限定され、観察しやすい。(できれば個人で雌雄1匹ずつ観察させたい。)

観察の後、雌雄を判断した根拠を説明する場を設定する。



オ ス

メ ス

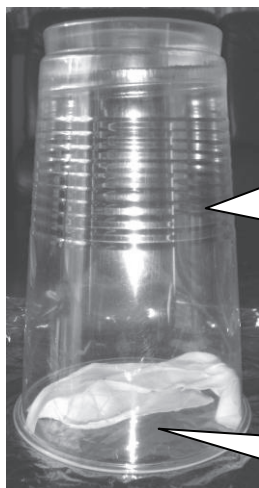
水が多すぎるとポリ袋の中で泳ぎ回り、観察しにくい。  
メダカが弱らないよう短時間で観察するようにする。

「背びれが・・・、しりびれが・・・だからメス(オス)だ」と説明させる。

\*受精卵をチャック付ポリ袋に入れて、誕生まで観察することもできる。

### 【昆虫を飼育・観察する際の入れ物の工夫】

今回の学力調査では、モンシロチョウの卵の大きさや、昆虫の体のつくりの理解についても十分とはいえなかった。観察する機会が少ないことや、昆虫やメダカのように対象に動きがあるため、じっくりと観察することが難しかったことが考えられる。モンシロチョウの卵や成長の様子、昆虫の体のつくりを飼育・観察する際には、プラスチック製のコップを利用すると便利である。



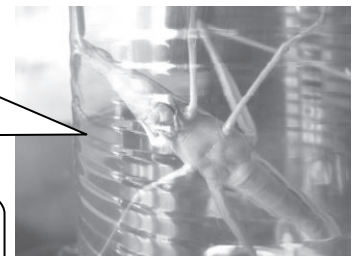
動きのある昆虫でも、プラスチック製のコップの中だと体のつくりを観察しやすい。昆虫をさわるのが不慣れな子どもでも、間近で観察できる。

プラスチック製のコップの中で卵から飼育すると、成長の過程での形・色・大きさ等がわかりやすい。モンシロチョウでは、成虫になるまで飼育が可能である。

\*小さな空気穴を開けておく。

プラスチック製のコップに合うふたは、ホームセンターで購入可能。

\*写真のコップは525mlサイズ





中学校 第3学年

「社会」「理科」「英語」



(1) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野 (68.9%)】

- ：地形図から地域の特色を読み取ること [3(2)]
- ：主題図を適切に読み取ること [5(2)]
- ▼：複数の資料から読み取ったことを関連付けて表現すること [3(4)②, 5(3)]

【緯度と経度を使い、地図上で世界各地の位置関係をとらえること】

設問1(3)の正答率は56.1%であり、緯度と経度から位置を特定することは不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
1(3)	緯度と経度	56.1%

北緯と南緯の区別はできているが、本初子午線を基準に東経と西経に分けられることの理解が不十分であると考えられる。そのため、21年度の類似問題の正答率をやや上回っているが、依然として課題の1つであり、指導の改善が必要である。

中心となる国が異なる地図(ヨーロッパ中心、南半球が上にくるもの等)を活用するなどいろいろな種類の地図に親しませたり、時差の指導とも併せて緯度と経度を用いた位置の表し方を習得させたりすることが必要である。

【複数の統計資料を関連付けて考察しまとめること】

設問3(4)①の正答率は45.3%であり、不十分である。果実産出額522億円をそのまま農業産出額にした誤答がかなりみられたことから、表やグラフのタイトルをしっかり読み取っていないことが原因と考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
3(4)①	農業産出額の算出	45.3%
3(4)②	山梨県の農業の特色	37.3%

設問3(4)②の正答率は37.3%であり、21年度の類似問題の正答率を27.5ポイント上回っているが、特色を適切に文章にまとめる力はまだ不十分である。単に「果実の産出額が多い」とした誤答が多いことから、産出額と割合の区別ができていないことがうかがえる。

複数の資料を関連付けて考察する前提として、資料の見方を指導し、一つ一つの資料を丁寧に読み取らせることが大切である。そうした学習経験を積み重ねながら、分かったことや意見を「発表する」「話し合う」場を設定することにより、資料の比較の仕方や関連付け方などに気付かせていくことが必要である。

(H20「分析・考察」 指導事例2 参照)

【複数の主題図を関連付けて考察しまとめること】

設問5(3)の正答率は50.8%であり、誤答には、いずれかの気候帯の読み取りを間違えているものや気候帯名が書いてないものが多く、先の大問3と同様に2つの主題図から読み取ったことを関連付けて考察する力は不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
5(3)	複数の資料の関連付け	50.8%

「世界の国々の調査」や「世界と比べてみた日本」等の単元において、自然環境・人口・資源と産業などさまざまな特色をあらわす地図を重ね合わせて、類似点や相違点などを考えたり予想しあったりする場を設けていくことが必要である。

【歴史的分野 (56.8%)】

- ◎：資料を活用し、歴史上の人物と歴史的事象を関連付けて理解すること [4(2)]
- ▽：時代区分について理解すること [4(1)]
- ▼：歴史的事象の意味・意義について説明すること [2(4)]
- ▼：時代の特色をとらえること [2(2), 4(4)(5)]



### 【歴史的事象の意味・意義について説明すること】

設問2(4)の正答率は31.8%であり、不十分である。

誤答では、「中心人物」の名前はあっているが、「めざした政治」が違っているものが多かった。無解答が39.8%も

あったことから、両方について触れることを条件としたため、正確に記すことができなかつた生徒が多かつたと思われる。

指導に当たっては、歴史的事象の意味・意義について自分の言葉で適切にまとめる学習活動を、単元や本時の指導計画に位置付け、内容の理解を深めていくことが重要である。その際、「つまり」で始めて短くまとめさせたり、キーワードを使ってまとめさせたりすることが有効である。書いた後、ペアや全体で説明しあうなどすると確かな理解につながると考えられる。

(H21「分析・考察」 指導事例2 参照)

設問番号	問題の内容	正答率
2(4)	歴史的事象の説明(大の瀾)	31.8%

### 【時代の特色をとらえること】

設問2(2)の正答率は32.7%と18年度の正答率と同程度と考えられるものの、聖徳太子の政治の背景についての理解は不十分である。ウの「天皇の力が強く、律令の政治が行われていた」を選んだ誤答が極めて多かった。

設問4(4)の正答率も43.4%で、安土桃山時代の文化の特色の理解は不十分である。室町時代の文化や江戸時代の文化と区別できていないものと思われる。

設問4(5)の正答率は43.2%であり、21年度の類似問題の正答率をやや下回っており、江戸時代の政治の特色をとらえることは不十分である。誤答では、武家諸法度と参勤交代の資料の内容を根拠にして理由付けていないものが多かった。

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ① 「なぜ(その歴史的事象が)起こったのか?」「どのような影響を与えたのか?」などの課題を設定し、調べたことを整理して因果関係を自分の言葉で表現すること
- ② その当時の政治(政治の担い手)や経済が文化にも大きな影響を及ぼしていることを理解すること
- ③ まとめとして、学習した内容を振り返り、その時代はどんな時代だったといえるのかを前の時代と比べて説明すること

(H20「分析・考察」 指導事例1 参照)

設問番号	問題の内容	正答率
2(2)	飛鳥時代のようす	32.7%
4(4)	時代の特色(安土桃山文化)	43.4%
4(5)	学習のまとめ(江戸時代)	43.2%

### 【学習課題をつくること】

設問6(3)の正答率は43.9%であり、21年度の正答率をかなり下回っており、不十分である。写真や作文と関連付けていないものや写真で見たままを書いているもの、作文をそのまま抜き出しているものが誤答に多かった。

指導に当たっては、資料をもとに疑問点を見付けさせた後、適切な学習課題を設定させることが大切である。問題解決的な学習の充実を図るためには、とりわけ「導入」を重視し、学習のねらいを明確に意識させる工夫が必要である。

設問番号	問題の内容	正答率
6(3)	学習課題づくり	43.9%

### 指導改善のポイント

- 複数の資料から読み取ったことを関連付けて、自分の考えをまとめる力を育成すること(→事例1)
- 歴史的事象の意味・意義について説明する学習を充実させること
- その時代を大観し、表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせること(→事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

(2) 改善に向けた指導事例

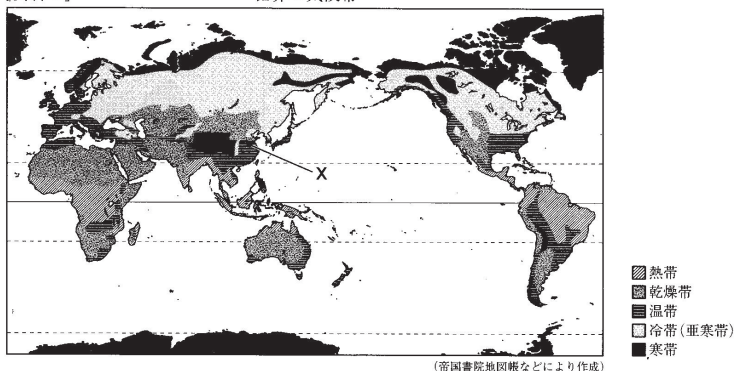
ア 事例1 複数の資料から読み取ったことを関連付けて、自分の考えをまとめる力を育成すること

① 問題と解答の状況

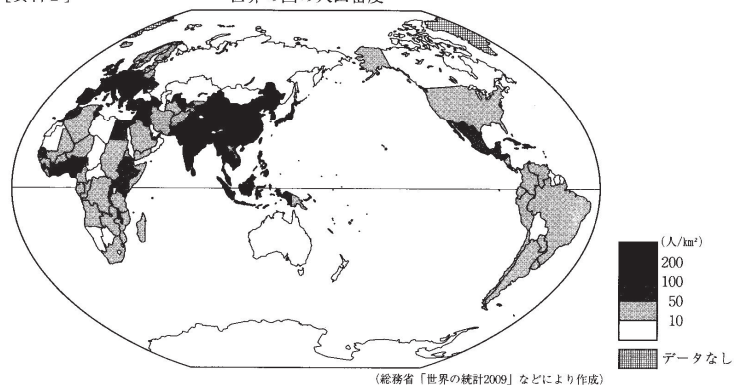
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(3)	地理的分野	複数の資料から読み取ったことを関連付けて表現することができる。	社会的な思考・判断 資料活用の技能・表現

5 資料を見て、あとの各問いに答えなさい。

[資料1] 世界の気候帯



[資料2] 世界の国の人口密度



(3) 世界の気候帯と人口分布にはどのような関連がみられるか、資料1と資料2から読み取れることを書きなさい。

正答例	誤答例	
温帯の人口密度が高い。	熱帯や寒帯，冷帯の人口密度が低い。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
50.8% (31.2%)	34.1%	15.0%

② 指導改善に向けて

誤答には、いずれかの気候帯の読み取りを間違えているものや気候帯名が書いてないものが多く、2つの主題図から読み取ったことを関連付けて考察する力に課題が見られる。これは、国ごとの人口密度の分布を気候帯の主題図と重ねて大きくとらえられなかったことが原因と考えられる。

「世界の国々の調査」や「世界と比べてみた日本」等の単元において、自然環境・人口・資源と産業などさまざまな特色をあらわす地図を重ね合わせて、類似点や相違点などを考えたり、関連性を予想しあったりする場を設けていくことが必要である。

③ 改善事例 第2学年「世界と比べて見た日本」(様々な特色を関連付けて見た日本)

1 指導のねらい


- ・「様々な面からとらえた日本」で学習した成果を相互に関連付け、日本全体の視野から見た諸地域の特色を大観させる。(活用力の育成)


2 具体例(小単元の流れ)

導入

- 「人口から見た日本の地域的特色」で扱った人口分布図で、過密地域と過疎地域の分布をとらえる。
- 学習課題を設定する。

A 日本の人口分布






日本の人口は、国土にまんべんなく広がっていません。むしろかたよった分布をしています。前に過密地域と過疎地域が見られるということ学習しました。

**【学習課題】** なぜ人口の集中している地域やまばらな地域がみられるのだろうか？


追究

- これまで学習してきた主題図のどれと関連性がありそうか、個人で考える。
- グループで予想を出し合い、主題図を重ね合わせて関連性を見いだす。


B 気候区分



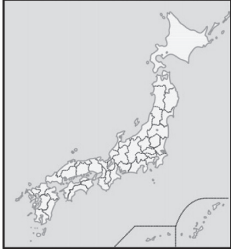
C 地形



D 工業地帯・地域の分布




E 高速交通網





Cと関係があると思う。平野の方が山地より住みやすいから人口は多くなると考えられるよ。



Dと関係があると思う。工業がさかんな地域には働き口を求めて人口が多くなるといえそうだよ。

まとめ

- 関連性を見付け出した主題図を重ね合わせて一枚の主題図を作成する。
  - ・白地図に色をぬったり、関連性を自分の言葉で書き込んだりする。
  - ・主題図を重ね合わせることでできるソフトを活用し、パソコンで作成するのもよい。

【生徒の学習状況】 「様々な面からとらえた日本」で上記の主題図をそれぞれ読み取って日本国内の地域の違いについて学習している。

【学習活動】 これまで学習した主題図を重ね合わせるなどして関連性を見いだす学習

イ 事例2 その時代を大観し、表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4 (4)	歴史的分野	安土桃山時代の文化の特色を理解している。	社会的事象についての知識・理解
4 (5)		複数の資料から選択して情報を読み取り、自分の考えをまとめることができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断

4 (4) 安土桃山時代の文化の特色として、もっともふさわしいものを次のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。

ア 大名や大商人が好んだ豪華で壮大な文化が発達した。  
 イ 武士や公家だけでなく、民衆（庶民）が楽しむ文化が広まった。  
 ウ 中国の文化をもとにしながら、日本の風土や生活にそった文化が発達した。  
 エ 大阪・京都を中心に、町人に支えられた文化がさかんになった。

(5) 江戸幕府は、鎌倉幕府や室町幕府よりも長く続きました。その理由として考えられることを、資料3と資料4をもとにして書きなさい。

[資料3] 武家諸法度

- 一 文武弓馬の道をもっぱらたしなむこと。
- 一 城は、たとえ修理であっても必ず届け出ること。ましてや新しく城を築くことはかたく禁止する。
- 一 幕府の許可がなく、かってに婚姻を結んではいけない。（「徳川禁令考」より一部要約）

[資料4] 参勤交代のようす

（「加賀藩大名行列図屏風」写真）

（「加賀藩大名行列図屏風」）

設問番号	正答例	誤答例	
	4 (4)	ア	イ
	正答率	誤答率	無解答率
	43.4%	54.4%	2.2%
設問番号	正答例		
	・武家諸法度を定めて、大名に厳しい統制を加えることや、参勤交代で重い負担を課することにより、大名に力を持たせないようにしたから。 ・武家諸法度を定め、参勤交代を義務づけるなど、大名を厳しく統制することで、幕府に反抗できないようにしたから。（1つの資料だけをもとにして書かれたもの）		
4 (5)	正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
	43.2%（32.3%）	33.6%	23.2%

② 指導改善に向けて

安土桃山時代の文化の特色の理解は不十分である。誤答では、室町時代の文化や江戸時代の文化と区別できていないものが多かった。また、江戸時代の政治の特色をとらえることも不十分である。誤答では、資料の内容を根拠にして表現できていないものが多かった。これらは、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、各時代の特色を大きくとらえられていないことが原因と考えられる。

指導に当たっては、とりわけ「導入」を重視し、学習のねらいを明確に意識させることが大切である。また、学習のまとめとして学習したことを振り返り、その時代はどんな時代だったといえるのかを前の時代と比べて説明するといった学習を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第1・2学年「近世の日本」

1 指導のねらい

- ・学習した内容を活用して近世の特色をとらえ、自分の言葉で表現できるようにさせる。  
(活用力の育成)

2 具体例（単元の流れ）

導入  
(課題意識をもつ)

- 中世のまとめを振り返る。
- 江戸時代について、小学校で得た知識やイメージを出し合う。
- 中世と近世との違いについて気付いたことを発表する。(年表等の活用)

中世 争乱の時代    近世 長く平和が続いた時代



どのようにして安定した時代が生まれたのかな？

近世とはどのような時代だったのだろうか？

追究  
(時代の転換をとらえる)

- ・ 戦国時代のような
- ・ ヨーロッパ人来航の背景とその影響
- ・ 織田・豊臣による統一事業と対外関係
- ・ 武士や豪商などの生活文化の展開

織田・豊臣による統一事業によって近世社会の基礎が形成されたことがわかったよ。

- ◆ 江戸幕府は 260 年間も政権を維持したことから江戸幕府の政治の特色を調べる。(H21「分析・考察」指導事例2 参照)
- ・ 江戸幕府の成立と大名統制
- ・ 鎖国政策
- ・ 身分制度の確立と農村の様子
- ・ 鎖国下の対外関係
- ◆ 江戸幕府の政治の特色を自分の言葉でまとめる。

江戸幕府はどのようにして260年間も政権を維持できたのだろうか？



幕府による諸政策などを通して、幕府と藩による支配が確立したことがわかったよ。

- ・ 産業や交通の発達
- ・ 教育の普及と文化の広がり

町人文化が都市を中心に形成され、各地方の生活文化が生まれたことがわかったよ。

- ・ 社会の変動や欧米諸国の接近
- ・ 幕府の政治改革
- ・ 新しい学問・思想の動き

幕府の政治は次第に行き詰まりをみせたことがわかったよ。

まとめ  
(時代の特色を表現する)

- 「近世とはこんな時代」と表現するキャッチコピーを、下の4つの視点に着目して自分の言葉でまとめる。
  - ・ 政治の展開    ・ 産業の発達
  - ・ 社会の様子    ・ 文化の特色
- 中世との違いや特色を示すキーワードを理由に含めて発表し合う。



近世とは「幕府と藩により都市と地方が発達した時代」だと思います。なぜなら・・・

【生徒の学習状況】 中世では、武士の支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを学習している。

【学習活動】 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動



(1) 領域・分野ごとの分析・考察

【第1分野 (49.0%)】

- ：物体の置き方が違って重さは変化しないことについて理解すること [3 (1)①]
- ◇：音の高低による波形の違いについて理解すること [1 (2)]
- ▼：物体の質量から、面に加わる圧力の大きさを求めること [3 (2)]
- ▼：化学変化の実験データを処理し、考察した内容をまとめ表現すること [9]
- ▼：回路の抵抗、電流の大きさを求めること [8 (2) (4)]

【物体の質量から、面に加わる圧力の大きさを求めること】

設問3 (2)の正答率は18.6%であり、圧力の大きさを求めることは極めて不十分である。21年度の県の調査より正答率が9.1ポイント上回っているが、無解答率が35.2%もあり、圧力を求める式を立てられない生徒が多い。

設問番号	問題の内容	正答率
3 (2)	圧力の計算	18.6%

圧力の大きさの違いによって生ずる現象と圧力の数値的な違いとを関連付けてとらえさせることが大切である。また、圧力を求める式の立て方に重点を置いた指導の充実を図りながら、計算方法を習得させることが必要である。

【化学変化の実験データを処理し、考察した内容をまとめ表現すること】

設問9 (2)の正答率は34.5%であり、実験結果のデータを適切にグラフ化することは不十分である。誤答例としては、縦軸に銅の質量をとっているものや酸化銅の質量でグラフにしているものがあつた。さらに、(3)の正答率も26.3%であり、原子・分子モデルで化学変化を表すことは、不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
9 (2)	銅と化合する酸素との関係のグラフ	34.5%
9 (3)	銅の酸化の原子・分子モデル	26.3%

グラフ作成の際には、実験の目的をふまえて横軸にとる量(条件)と縦軸にとる量(結果)をしっかりと意識させることが大切である。そのうえで、どのように目盛りを付ければ全てのデータがプロットできるかを考えさせるなど、測定値の処理の仕方を習得させる必要がある。また、化学変化における規則性について原子・分子モデルを用いて考察させ、微視的な見方や考え方を養うよう配慮する必要がある。(H21「分析・考察」改善事例2 参照)

【回路の抵抗、電流の大きさを求めること】

設問8 (2)の正答率は58.7%であり、抵抗値を計算することは不十分である。また、(4)の正答率は28.5%であり、同じ電熱線2本を並列につないだときの電流の強さを求めることも不十分である。誤答例としては、電熱線1本のときと同じ1.5Aや、半分の0.75Aと答えているものがあつた。

設問番号	問題の内容	正答率
8 (2)	抵抗値の計算	58.7%
8 (4)	並列回路の電流	28.5%

複数の抵抗器のデータをもとに抵抗値を求めさせるだけでなく、どれが電流の流れにくいものなのかを指摘させることも大切である。また、直列・並列回路については、実験結果を分析して解釈させながら規則性を見いださせるよう配慮することが必要である。

【第2分野 (55.8%)】

- ◇：双子葉類の特徴を理解すること〔2(3)〕
- ▽：等圧線から気圧を推定すること〔4(1)〕
- ▼：だ液の働きを調べる実験における対照実験の意図について理解すること〔5(2)〕
- ▼：地層を構成する岩石について理解すること〔7〕

〔等圧線から気圧を推定すること〕

設問4(1)の正答率は61.1%であり、等圧線から気圧を読み取ることは十分とはいえない。また、前線付近の寒気・暖気の動きと雲の発生を関連させて考察することも不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(1) 等圧線の読み取り	61.1%
	(2) 寒冷前線における空気の動き	51.9%
	(3) 寒冷前線と雲	54.0%

指導に当たっては、低気圧・高気圧・前線と雲の発生及び天気との関連を理解させたり、モデル実験で前線の構造を実感させたりすることが大切である。また、実際の天気図と気象衛星画像を対比しながら天気の変化を考察する指導を充実する必要がある。

〔だ液の働きを調べる実験における対照実験の意図について理解すること〕

設問5(2)の正答率は38.4%であり、対照実験の必要性を理解し、その理由を表現することは不十分である。誤答としては、結果を比べるためと答えたものが見られ、無解答が14.9%あった。だ液のはたらきを調べる方法や結果に関する理解についても十分とはいえない。(3)の誤答として、ヨウ素溶液が反応した試験管を反対にとらえたものが多かった。

設問番号	問題の内容	正答率
5	(2) 対照実験の必要性	38.4%
	(3) だ液のはたらき	55.8%
	(4) ベネジクト液の使用法	51.4%

観察・実験を計画する際に目的を明確にし、条件設定や操作について十分考えさせ、自分の考えを表現させる学習活動を充実することが必要である。

〔地層を構成する岩石について理解すること〕

岩石の形成過程や当時の環境を具体的にイメージして捉えること、柱状図から読み取った情報を立体的に考察することは不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
7	(1) 堆積岩	21.2%
	(3) 示相化石	39.5%
	(4) 柱状図の読み取り	48.0%

生徒が実物をもとに観察・実験に取り組むとともに、得られたデータをスケッチや柱状図などで表して対比するなど、地層の重なり方や広がり方を立体的に捉える学習活動を充実することが必要である。

指導改善のポイント

- 観察、実験の目的を明確にし、適切な条件設定や操作の意図を考える指導を充実させること (→ 事例1)
- 身の回りの事象から問題を見だし、日常生活と関連付けて考察し、科学的に探究する学習活動を重視すること
- データを図、表、グラフ、モデル、式などの多様な形式で表す活動を重視すること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。



## (2) 改善に向けた指導事例

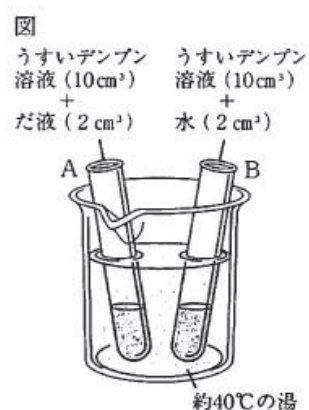
### ア 事例1

観察，実験の目的を明確にし，適切な条件設定や操作の意図を考える指導を充実させること

#### ① 問題の解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (2)	第2分野	対照実験の必要性を指摘できる。	科学的な思考

5 だ液のはたらきを調べるために，図のように，2本の試験管A，Bを用意し，Aにはうすいデンプン溶液とだ液，Bにはうすいデンプン溶液と水を入れ，約40℃の湯につけておきました。次の問いに答えなさい。



(2) デンプン溶液と水を入れた試験管Bを用意し，同じように実験（対照実験）したのはなぜですか。その理由を書きなさい。

正答例（準正答例）	誤答例	
・だ液のはたらきによって，デンプンが変化したことを確認するため。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果を比べるため。</li> <li>・だ液のはたらきを調べるため。</li> <li>・ちがいを見つけるため。</li> </ul>	
正答率（準正答率） 38.4% (0.5%)	誤答率 46.7%	無解答率 14.9%

#### ② 指導改善に向けて

誤答例には、「結果を比べるため」「ちがいを見つけるため」が見られ、「比べる」ことで結果を追究する対照実験の必要性は感じていても、何がどのようなはたらきをするかを確認するための条件設定であるか正しく理解されていない。また、設問9 (1)の銅の酸化において、加熱とかき混ぜる操作をくり返す理由を問う正答率も19.0%と低く、操作の意図についても理解は不十分である。

実験や観察を通して、「論理的に考える → 自分の考えを文章や図でかく → 文章や図でかいたことを言葉で表現する」という思考・表現の流れを活動に取り入れていくことが大切である。

### ③ 改善事例 第1学年「植物の体のつくりと働き」 第2学年「動物の体のつくりと働き」

#### 1 指導のねらい

対照実験の必要性を中心に、条件設定を考える力を段階的に磨いていきたい。1年の「植物の光合成」では習得的な課題として対照実験の意義を理解させる。また、「植物の呼吸」や2年の「だ液のはたらき」では活用的・探究的な課題として対照実験を計画する場面をつくり、考えて表現する活動を充実させたい。

#### 2 具体例

##### (1) 習得的な課題例：第1学年「植物の体のつくりと働き」の「植物の光合成」

課題	<植物が光合成により二酸化炭素をとり入れていることを確認しよう>
実験	タンポポの葉を入れた試験管と入れない試験管を用意し、息をふきこんでゴム栓をし、30分間日光にあてる。
予想	2本の試験管に石灰水を入れた反応を予想させる。
条件考察	葉を入れない試験管を用意する意味を考えさせる。
説明	対照実験の意義を説明する。

##### 《ポイント》

- ・ 日光にあてている時間を利用して、予想や実験の条件設定について考えさせる。
- ・ 条件考察では、「何が行っているはたらきか。」、「どのようなはたらきか。」と段階的に発問する。光など他の要因によって変化する可能性も考えさせる。
- ・ 表現方法を次のようにパターン化する。  
→ タンポポの葉が光合成により二酸化炭素をとり入れるはたらきを確かめるため。

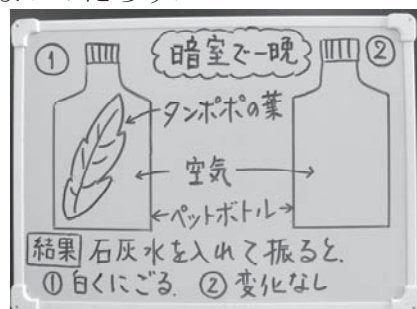
##### (2) 活用・探究的な課題例① 第1学年「植物の体のつくりと働き」の「植物の呼吸」

「植物の光合成」における対照実験の学習を活かして、「植物の呼吸」について探究的な課題を設定できる。

課題	<植物が呼吸していることをどのように調べたらよいのだろう>
実験計画	タンポポの葉を使ってどんな装置を組み立て、どんな操作を行えば確認できるか考えさせる。

##### 《ポイント》

- ・ 各班で対照実験を設定する理由について話し合わせる。
- ・ 実験計画や結果の予想を、ホワイトボード等を用いて、図や文章で表現させる。



(実験計画の例)

##### (3) 活用・探究的な課題例② 第2学年「動物の体のつくりと働き」の「だ液のはたらき」

「だ液のはたらき」を調べる実験では、流れを工夫することで対照実験を考えさせる場面を設定できる。

課題	<だ液はデンプンにどのようにはたらくのだろう>
実験	だ液とデンプン溶液を入れた試験管を約40℃の湯につけた後、ベネジクト液やヨウ素溶液の反応を調べる。
考察	デンプンが糖に変化したことを調べた後、だ液のはたらきであることを確認するための対照実験を考えさせる。

##### 《ポイント》

- ・ 従来は、対照実験に用いた2つの試験管に、ベネジクト液を加えて糖の検出を行っているが、①糖の検出、②対照実験の順に行うことにより、対照実験に着目させ、そのねらいについて十分に考えさせることができる。

## イ 事例 2

データを図、表、グラフ、モデル、式などの多様な形式で表す活動を重視すること

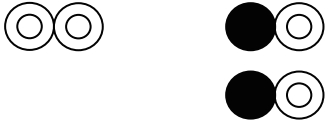
### ① 問題の解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
9 (3)	1 分野	化学変化を原子・分子モデルで考察することができる。	科学的な思考

9 図 1 のように、ステンレスの皿に銅の粉末をうすく広げて入れ、加熱とかき混ぜる操作を数回くり返し、できた酸化銅の質量を測定しました。次の問いに答えなさい。

(3) この化学変化をモデルで表すとどうなりますか。次の **ア** と **イ** にあてはまるモデルをかきなさい。ただし、銅原子を●、酸素原子を◎とする。

(銅)		(酸素)		(酸化銅)
● ●	+	<b>ア</b>	→	<b>イ</b>

正答例 (準正答例)	誤答例	
<b>ア</b> ◎◎ <b>イ</b> ●◎ 	<b>ア</b> ◎ ◎ 酸素原子がはなれて いるもの	<b>ア</b> ◎◎ ◎◎ 酸素分子が 2 個か いてあるもの
<b>ア</b> ◎ 酸素原子が 1 個だけ かいてあるもの	<b>無解答率</b> 6.1%	
<b>正答率 (準正答率)</b> 26.3% (0.0%)	<b>誤答率</b> 67.6%	

### ② 指導改善に向けて

誤答例には、「酸素原子がはなれているもの」が最も多く見られ、基本的な分子モデルの概念が形成されていないことが分かる。また、「酸素分子が 2 個かいてあるもの」「酸素原子が 1 個だけかいてあるもの」などもあり、銅と酸素が結びつく割合や化学変化の前後で、個々の原子数に変化しないことを十分に理解していないことが分かる。

設問 9 (4) の化学反応式の正答率も 33.1% と十分とはいえず、多くの生徒が化学変化をモデルや化学反応式で表すことを十分に理解していない。

指導改善に向けて、原子・分子のモデルを正しく理解させた上で、化学変化における規則性について原子・分子のモデルを組み替える操作を通して考察させ、モデルの有効性を実感させながら、微視的な見方や考え方を養うよう指導を工夫する必要がある。

### ③ 改善事例 第2学年「化学変化と原子・分子」

#### 1 指導のねらい

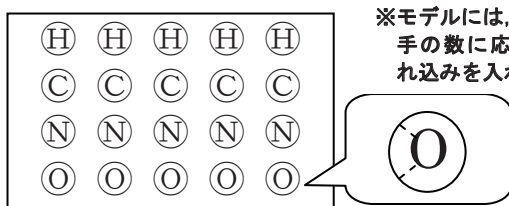
「基本的な分子モデルの概念が形成できていない」要因として考えられることは、生徒にとって「分子の姿」を実感できないことや分子モデルを扱う機会が少ないことなどが考えられる。そこで、「分子の姿」を実感するために、結合の手の考えを取り入れた分子モデルを作らせたり、原子・分子モデルを用いて化学変化を考えさせたりする。

#### 2 具体例

##### (1) 習得的な課題例：第2学年「化学変化と原子・分子」

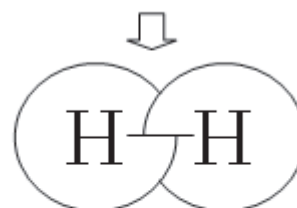
**課題** <いろいろな分子のモデルを作り、化学式で表そう>

**実習** 酸素、水素、窒素、水、二酸化炭素、アンモニアを原子のモデルを用いて分子のモデルで表す。



**水素分子**：水素原子が2個結びつてできている

**モデル**



**化学式**



##### 《ポイント》

- ・ 分子を作るルールとして、それぞれの原子の結合の手をあまり使わないように結びつくことを確認する。
- ・ ワークシートの構成は、**分子名**→**モデル**→**化学式**とし、逆もできるように指導する。
- ・ 発展的な課題として、この原子モデルを使って自由に分子を作り、実在するものは物質名を確認する。
- ・ 答え合わせやまとめの場面では、デジタルコンテンツ等（理科ネットワーク三次元分子モデル等）を利用して、視覚的、直感的に理解を深めるようにするとよい。
- ・ 分子をつくらない物質に関しては次時に行う。その際、モデルで表すときのルールをしっかりと確認し、分子をつくる物質との混乱を避ける。

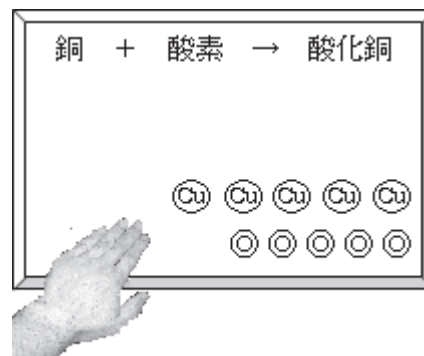
##### (2) 活用・探究的な課題例：第2学年「化学変化と原子・分子」

**課題** <原子・分子モデルで化学変化を表そう>

**実習** 銅の酸化について考える。

##### 《ポイント》

- ・ ホワイトボードを準備し、必要な原子のモデルは、あらかじめ配付する。
- ・ モデルで反応前の物質を表し、それを組み替えてできた反応後の物質を確認する。
- ・ すべての生徒が、考えながらモデルを動かすように配慮する。
- ・ 化学変化の前後で原子の数と種類に変化がないことを確認する。
- ・ 他の化学変化についても同様に行う。



※単元を通して、「酸素」という言葉が「酸素原子」、「酸素分子」、「物質名」のいずれを表しているのかを意識して指導することで、生徒の理解の「あいまいさ」が解消される。

平均正答率
61.5%

(1) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと (74.1%)】

- ：ポイントとなる語を正しく聞き分けることや、質問・依頼などを聞いて適切に応じること  
 [1- No. 1, 2- No. 1・3・4, 3- No. 1]  
 ▼：まとまりのある英語を聞いて、内容を整理しながら要点を聞き取ること [3- No. 2・3]

【ポイントとなる語を正しく聞き分けることや、質問・依頼などを聞いて適切に応じること】

設問1 No. 1は、絵の内容を表す語を聞き分ける問題で、良好である。設問2 No. 4の話しかけへの応答は概ね良好で、20年度の類似問題の正答率43.6%、21年度の関連表現での正答率51.8%を上回っており、改善が見られる。

設問番号	問題の内容	正答率	
1	No. 1	絵の内容を表す英文の聞き取り	95.1%
2	No. 1	話しかけの内容に応じた適切な応答	77.6%
	No. 3		88.1%
	No. 4		81.3%
3	No. 1	留学生紹介の文章の聞き取り	88.8%

【まとまりのある英語を聞いて、内容を整理しながら要点を聞き取ること】

設問3は、情報を整理しながら要点を聞き取る問題で、No. 2では曜日についての情報が多かったにもかかわらず、基準に到達している。No. 3の滞在期間については不十分であり、数についての情報を処理しながら文全体を理解することには、依然、課題が見られる。

設問番号	問題の内容	正答率	
3	No. 2	留学生紹介の文章の聞き取り	72.4%
	No. 3		51.7%

今後は、話し手が伝えたいことや大切な情報を整理しながら理解するための指導が必要で、情報を時系列に整理する活動や、情報間の関係を図式化する活動が有効である。(H19 指導資料集 指導事例2 参照)

【読むこと (65.2%)】

- ◇：まとまりのある文章を読んで、大まかな流れや単語の意味を読み取ること [7, 8]  
 ▼：まとまりのある文章を読んで、文と文のつながりや具体的な内容を読み取ること [9]

【まとまりのある文章を読んで、大まかな流れや単語の意味を読み取ること】

設問7の概要、設問9(1)の状況や心情の理解は、概ね良好である。設問8の文脈に合う単語の意味理解は、21年度の類似問題の正答率59.7%を18.7ポイント上回っており、改善が見られる。

設問番号	問題の内容	正答率	
7	概要の読み取り	81.1%	
8	文脈に合う単語の意味理解	78.4%	
9	(1)	状況や心情の理解	81.6%

【まとまりのある文章を読んで、文と文のつながりや具体的な内容を読み取ること】

設問9(2)の文と文のつながりの理解は、21年度の類似問題の正答率46.1%を14.2ポイント上回っており改善が見られるものの、十分とはいえない。(3)の具体的な内容の理解は、不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率	
9	(2)	文と文のつながりの理解	60.3%
	(3)	具体的な内容の理解	32.1%

今後は、事前に内容を問う質問を与えることや、それらの答えの根拠となる語句や文を尋ねることが必要である。また、短時間で必要な情報を見付ける活動を重視することが大切である。(H20「分析・考察」指導事例1 参照)



## 【書くこと (46.4%)】

▼：場面にふさわしい内容や伝えたい情報を正しい語順や語法で書くこと [6, 10]

▼：自分の考えや気持ちが伝わるように、まとまりのある文章を書くこと [11]

### 【場面にふさわしい内容や伝えたい情報を正しい語順や語法で書くこと】

設問6は、既習事項を活用し身近な場面に応じて内容を正しく書く問題である。「相手の名前を尋ねる場合の表現」や「相手に物を手渡す場合の表現」は基本的な表現であるが、場面と求められる表現が適切に結びつかなかったためか、ともに正答率は低く、無解答率も高かった。

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
6	(1) 場面にふさわしい内容を正しく書くこと	40.7%	12.8%
	(2)	48.4%	34.5%
10	(1) 正しく伝わるように書くこと	22.5%	16.0%
	(2)	23.0%	25.6%
	(3)	38.6%	16.3%

今後は、練習した英文を必要な場面で繰り返し使わせることや、場面や状況にあった表現を自ら考えて使わせながら知識・技能として定着させることが重要である。

設問10は、間違いを含む英文を正しく伝わるように書き直す問題で、今年度も正答率は低く、大きな課題が残る。(1)では前置詞を欠く誤答、(2)では助動詞の後のbe動詞の原形を欠く誤答、(3)では不定詞や動名詞を正しく書けない誤答が多く、各文法事項の形・意味・用法が定着していない。

今後の指導に当たっては、新出事項の導入の際に既習事項と対比したり、関連した事項を一定のまとまりで整理したりして、共通点や相違点に気付かせながら知識を確かなものにすることが必要である。また、語順や修飾関係の学習においては、日本語と英語の違いに留意した指導も有効である。

### 【自分の考えや気持ちが伝わるように、まとまりのある文章を書くこと】

設問11は、テーマに基づいてまとまりのある英文を書く問題であり、正答率は29.1%と不十分である。2文以下の誤答、正しい文構造でない誤答、好きなものを羅列しただけの誤答が多い。「好きなこと(もの)」という書きやすいトピックであったことを考慮すると、まとまりのある文章を書くことは、依然、大きな課題である。

年度	問題の内容(テーマ)	正答率	無解答率
20	「パソコンに関して知っていることや思っていることなど」について	15.3%	25.2%
21	「自分の夢」について	31.7%	27.9%
22	「自分の好きなこと(もの)」について	29.1%	23.1%

今後は、各学年で書く分量や付けたい力を明確にしなが、短時間で与えられたテーマについて自分の考えや気持ちを正しく伝えることができるように指導する必要がある。接続詞や副詞、代名詞等を効果的に用いて、一貫性のある文章を書く指導も必要である。その際、他の領域と関連付けながら指導することや、肯定的な評価によって書こうとする意欲や態度をはぐくむことが大切である。

(H21「分析・考察」参照)

### 指導改善のポイント

□まとまりのある文章を聞く・読むなどの言語活動を通して、情報を整理しながらあらすじや大切な部分を理解させること

□既習事項との対比、関連事項のまとめ等を工夫し、基本的な文法事項の定着を図ること

(→ 事例1)

□身に付けた表現を活用する場を工夫し、一貫した文章を書く力や書く意欲を高めること

(→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導のあり方を示している。

(2) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

既習事項との対比，関連事項のまとめ等を工夫し，基本的な文法事項の定着を図ること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6	書くこと	場面にふさわしい内容を正しく書くことができる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・表現の能力

6 次の(1)，(2)のような場合，英語でどのように言いますか。3語以上の英文を，それぞれ1文書きなさい。  
 (1) 相手の名前が分からず，たずねたい場合  
 (2) 相手の落としたものを拾って手渡す場合

正答例(準正答例)	誤答例	
(1) What's your name? 等 (2) Here you are. Here it is. 等	・理解不能なものや動詞や代名詞，中心となる語の欠落 ・理解不能なものや動詞・時制・語順の誤り	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
(1) 40.7% (5.9%) (2) 48.4% (8.8%)	(1) 46.5% (2) 17.1%	(1) 12.8% (2) 34.5%

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
10	書くこと	与えられた情報を基に，伝えたい内容を正しく書くことができる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・表現の能力

10 下の英文は，太郎(Taro)さんがメモをもとに，最近日本にやってきたジェーン(Jane)さんのことを紹介するために作成したものです。しかし，この英文には間違えている部分があります。(例)を参考にして，(1)～(3)の文を正しく直して，それぞれの文全体を書きなさい。

Jane to Canada. \_\_\_\_\_ (例)  
 She is Korea last year. \_\_\_\_\_ (1)  
 She will is fifteen next month. \_\_\_\_\_ (2)  
 She like to shopping. \_\_\_\_\_ (3)

～メモ～  
 ジェーン  
 ・カナダ出身  
 ・去年は韓国にいた  
 ・来月15歳になる  
 ・買い物が好き

[正しく直した英文]  
 (例) Jane is from Canada.  
 (1) \_\_\_\_\_  
 (2) \_\_\_\_\_  
 (3) \_\_\_\_\_

正答例(準正答例)	誤答例	
(1) She was in Korea last year. 等 (2) She will be fifteen next month. 等 (3) She likes shopping. 等	・前置詞 in の欠如や時制の誤り ・動詞の欠如や be 動詞の語形の誤り ・to 不定詞のあとが原形でない・動詞が2つある誤り	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
(1) 22.5% ( 1.7%) (2) 23.0% ( 2.4%) (3) 38.6% (17.8%)	(1) 61.6% (2) 51.4% (3) 45.1%	(1) 16.0% (2) 25.6% (3) 16.3%

② 指導改善に向けて

基礎的・基本的な知識・技能を定着させるためには，文法事項や表現の意味，機能を十分に理解させ，適切な使用場面において繰り返し活用させながら，定着を図っていくことが必要である。

新出事項の導入では，文法事項や表現の意味が文脈の中で十分理解できるような提示の仕方を工夫するにとどまらず，既習事項と対比することによって知識を深める工夫が必要である。そして，確実に定着を図るために，関連のある文法事項をまとめて整理したり，語順や修飾関係を英語と日本語との違いに留意して指導したりすることが重要である。



③ 改善事例 第3学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

既習表現と対比しながら新出表現を導入することや、関連のある文法事項をまとめて整理することで、語彙・文法の知識を定着させる。

2 具体例①

＜既習表現と対比しながら  
現在分詞の後置修飾を導入する＞

①英語での説明文を聞いて、絵の中の適する人物に名前を記入するよう、事前に伝える。  
(口頭導入の際の主な導入文)

Teacher: Look at the girl with a dog. She is Kumi. Look at the boys under the tree. One of them is Yoshio.

Student: えっ、どっちの男の子？

Teacher: OK. I can say again. Look at the boy sleeping under the tree. He is Yoshio.

②誰がどの人物にあたるかを確認し、導入の際のポイントとなる句を提示する。

(1) Look at the girl with a dog.  
(犬と一緒にいる女の子)

(2) Look at the boys under the tree.  
(木の下にいる男の子)

(3) Look at the boy sleeping under the tree.  
(木の下で眠っている男の子)

(4) Look at the boy reading a book under the tree.  
(木の下で本を読んでいる男の子)

③新出事項である現在分詞の後置修飾の形・意味・用法を確認する。

④十分に練習させ、口になじませる。

＜絵を提示しながら導入を図る＞

(例)【公園での様子を表す絵】

- ・木の下で男の子が本を読んでいる。
- ・木の下で男の子が眠っている。
- ・女の子が犬と散歩している。
- ・女の子が走っている。

既習事項の前置詞句と関連付けて導入することがポイント。

前置詞句と対比することで、後置修飾という語順の共通点に気付かせる。

新出事項である現在分詞の入る位置や役割、既習事項との違いに気付かせる。

何度も口頭練習をすることで、基本的なパターンを暗唱させることが大切。

3 具体例② <様々な後置修飾を関連付けて整理し、まとめる>

○ 関連付ける後置修飾・・・前置詞句、不定詞、現在分詞、過去分詞、接触節、関係代名詞

① a pen on the desk	机の上のペン
② a book to read	読むための本
③ a woman cooking in the kitchen	台所で料理している女の子
④ a picture taken last year	去年、撮られた写真
⑤ a book I wrote	私が書いた本
⑥ a boy who likes dogs	犬が好きな男の子
⑦ a bus which (that) goes to Kyoto	京都へ行くバス
⑧ a bag which (that) I bought yesterday	私が昨日買ったカバン

□ 手順

- (1) ①の英語を提示し、意味を考えさせる。口頭で確認後、日本語を提示する。
- (2) ②～⑧まで順に同様に行う。
- (3) 英語と日本語とを比較させることで、修飾関係の違いに注目させる。
- (4) 矢印や□で囲むなど、修飾関係が視覚的にわかるように工夫して提示する。

(例) a pen on the desk

机の上の ペン

- (5) ①～⑧の句を文にすることで、文の組み立て方や語順について確認する。

(例) Please pass me a pen on the desk.

動詞 目的語 目的語 (文中では名詞句となって目的語の働きをしていることを確認)

4 その他

既習事項と対比しながら新出事項を導入するその他の例として、「現在形と現在進行形」・「過去形と現在完了形」が挙げられる。また、関連のある文法事項を整理してまとめるその他の例として、「時制」・「助動詞」が挙げられる。

## イ 事例 2

身に付けた表現を活用する場を工夫し、一貫した文章を書く力や書く意欲を高めること

### ① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
11	書くこと	初歩的な英語を用いて、自分の好きなこと（もの）について、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</li> <li>表現の能力</li> </ul>

11 あなたは、英語の授業で自分の好きなこと（もの）について簡単なスピーチをすることになりました。I'm going to tell you about my favorite thing. に続けて、**3文以上**のまとまりのある英語の文章を書きなさい。

正答例（準正答例）	誤答例
I like music and children, so I want to be a music teacher. I can play music and play with children. I have to learn a lot of things.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2文以下</li> <li>・ 一般動詞を2つ用いている</li> <li>・ be動詞＋一般動詞等の動詞の誤り</li> <li>・ 好きなもの（こと）の羅列</li> <li>・ 内容を理解できない</li> </ul>
正答率（準正答率） 29.1% (24.6%)	誤答率 47.8%
	無解答率 23.1%

### ② 指導改善に向けて

まとまりのある文章を書くことの指導においては、3学年を通じた計画的・系統的な指導を展開することが大切である。そのためには、「書くこと」についての学年系統表を作成するなどして、各学年の到達目標を明確にした指導が必要である。

授業では、身近な場面から生徒が興味・関心を持って書くようなテーマを設定したり、他の言語活動と関連付けて書かせたりする指導の工夫が求められる。さらに、相手に正しく伝わるように書くためには、文法事項の定着を図り、一貫性のある文章となるよう、接続詞や代名詞等を用いて論理的に表現できる指導の充実を図ることが重要である。

### ③ 改善事例 「書くこと」についての学年系統表

#### 1 ねらい

「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする」ために、3年間を通じた計画的・系統的な指導となるよう、各学年の到達目標を明確にする。

#### 2 学年系統表（例）

学年	学年段階に応じて取り扱う内容	到達目標	書けるようにした主なテーマ例	活用させたい文法事項や語彙例	5分間で書かせたい文の数
1	自分の気持ちや身の回りの出来事などに関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主語・動詞・目的語の語順に従って書く。</li> <li>・ 書くことに慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介</li> <li>・ 他者紹介</li> <li>・ 学校紹介</li> <li>・ わたしの一日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単文と重文</li> <li>・ 人称代名詞</li> <li>・ 接続詞や副詞 but, and, usually, often</li> </ul>	3文程度
2	事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結論－理由、例示など論理的に表現する。</li> <li>・ 伝えたい内容をつながりを考えて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日記</li> <li>・ 将来の夢</li> <li>・ 好きなこと・もの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複文</li> <li>・ 置換表現 Japan → the country</li> <li>・ 接続詞や副詞 because, if, when that, then</li> </ul>	4～5文
3	様々な考えや意見などに関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つながりのある文章を正しく分かりやすく書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本文化の紹介</li> <li>・ 中学校の思い出</li> <li>・ 意見の主張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な時制</li> <li>・ 接続詞や副詞 first, second, third</li> </ul>	5文以上

※ 本事例は、「テーマに基づいて短時間で書かせる活動」を想定したものである。

## 第2学年 <まとまりのある文章を書く指導例>

### 1 指導のねらい

場面に応じて自分の気持ちや感想などを相手にわかりやすく伝えることができるよう、他の言語活動と関連付けて書く力を育成する。

### 2 具体例 <「聞くこと」「話すこと」「読むこと」と関連付けた「書くこと」の活動>

テーマ：わたしの夏休み

#### □ 手順

(1) チャンツを練習する。"Where's Jack?" (Jazz Chants for Children, Oxford, 1979 参照)

Where's Jack?	He's not here.
Where did he go?	I don't know.
Where's Mary?	She's not here.
~ (中略) ~	
Where's Mr. Brown?	He's over there.
Where?	Over there, asleep in the chair.

まずはチャンツで関連表現に慣れ親しませる。チャンツの英文を工夫する。  
(形式)

(2) 教師が全体の前で一人の生徒と対話をする。(テーマは「夏休みにどこに行ったの?」) 他の生徒は対話をよく聞き、対話のあとにペアで内容を英語で確認する。

#### 【教師とAさんの主な対話例】

T: Hi, A. Where did you go this summer?  
A: I went to USJ with my family.  
T: Oh, good! Did you have a good time?  
A: Yes, I did.  
T: How many attractions did you visit?  
A: Five.  
T: What was your favorite?  
A: My favorite was Spider-man the Ride.  
It was so exciting!

#### 【対話内容を確認するための英文例】

- A went to USJ with his family this summer.
- He had a good time.
- He visited five attractions.
- His favorite was Spider-man the Ride.
- It was so exciting!

※必要に応じて日本語で確認する場面を入れてもよい。

(3) ペアで確認した対話内容について、全体の前でレポーターとなって発表する。

#### 【レポーターとしての発表文例】

Hi, everyone. A went to USJ with his family this summer. Where did you go this summer, C?  
(C: I went to ...) I see.  
A had a good time. He visited five attractions there. His favorite was Spider-man the Ride.  
It was so exciting for him! Thank you.

「聞くこと」「話すこと」を通して何を相手に伝えるべきかを確認する。(内容)

- (4) Aさんと教師の対話を参考に、夏休みにどこに行ったのかをペアで尋ね合う。  
(5) 相手が話した内容を英語で確認し合う(必要に応じて日本語で確認する場面を入れる)。  
(6) 「わたしの夏休み」というテーマで、英語で5文の文章を書く。  
(7) ペアで英文を交換して読み、コメントを返す(実態に応じて英語や日本語で)。  
(8) 英文を完成させて、全体の前で「わたしの夏休み」について発表する。

#### 【「わたしの夏休み」英作文(発表文)例】

Hi, everyone. I went to Koshien Stadium to watch high school baseball games this summer. I like baseball very much, so I was very excited at Koshien. When players hit a lot, people were screaming. I was very happy because I watched nice games. I'm going to practice baseball more to be a good player. Thank you.

一貫性のある文章となるよう、多様な接続詞や文法事項を用いて書かせることが大切。  
(構成)

#### □ 留意点

ペア活動では、4~5文で書かせたい内容を生徒が的確に質問できるように、事前に教師との対話で示すことが大切である。そして、答えをうまくつなげながら一貫性のある英文を書くよう指導することが必要である。

(H20 確かな学力を育む実践事例集(第3集)参照)



## Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察





# 1 小学校第4学年児童の調査結果

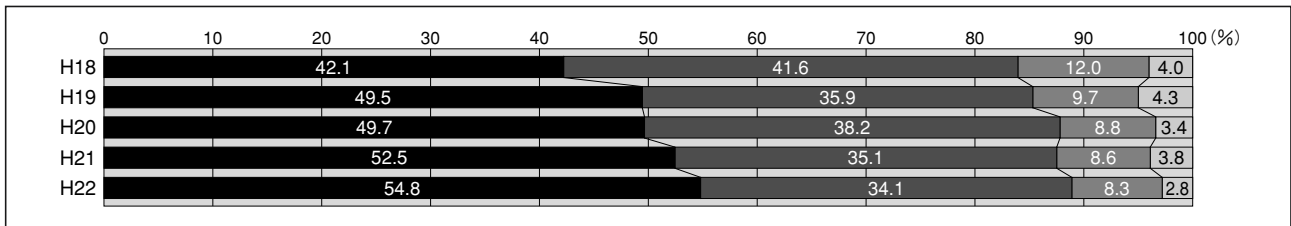
- 学校が好きと答えている児童の割合は88.9%とこれまでで最も高く、授業の内容がよく分かると答えている児童の割合も全教科で85%を超えている。
- 自分の考えを発表する、課題について自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強する、わからなかったことをもう一度勉強し直すことが好きと答えている児童の割合は、これまでで最も高く約70%であるが、小6、中3と学年が進むにつれて低下している。
- 予習、復習、計画的な勉強などを行っている児童の割合は、この3年間で2.9~5.6ポイント上昇しており、増加傾向にある。
- 平日の家庭学習を30分以上していると答えている児童の割合はこれまでで最も高く85.3%で、全くしないと答えている児童の割合は2.4%とこれまでで最も低い。
- 昨年減少した読書が好きな児童の割合は、89.2%とやや高くなったが、20年度より低い。
- 朝食を毎日食べていると答えている児童の割合は、90.9%とこれまでで最も高く、「早寝・早起き・朝ご飯」といった生活習慣は良好といえる。
- きまりを守る、人を進んで助ける、失敗をおそれずに挑戦していると肯定的に答えている児童の割合は80%を超えているが、「あてはまる」と自信をもって答えている児童の割合は半分程度である。

※無回答を除いた割合で示している。

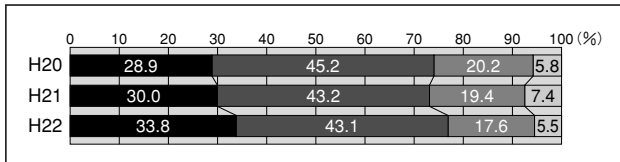
## 1 学校や各教科の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

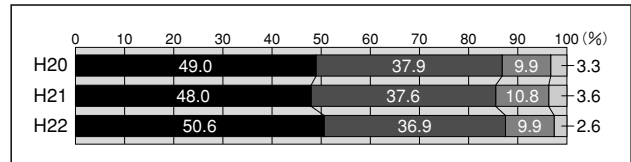
《学校は好きだ》



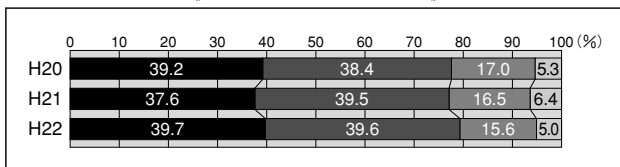
《国語の勉強は好きだ》



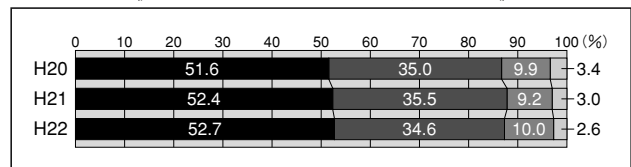
《国語の授業の内容はよくわかる》



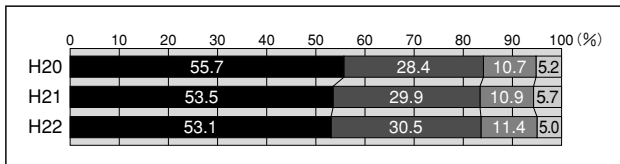
《社会の勉強は好きだ》



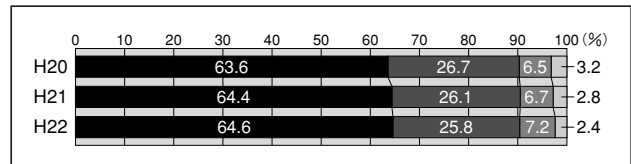
《社会の授業の内容はよくわかる》



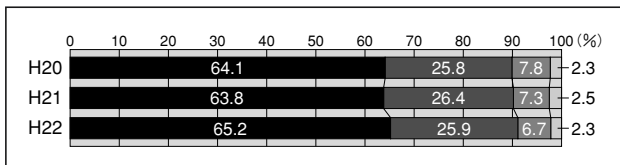
《算数の勉強は好きだ》



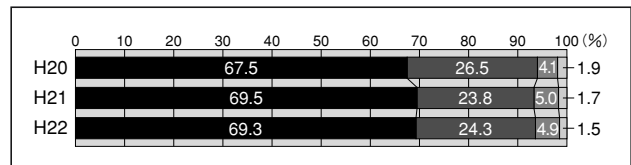
《算数の授業の内容はよくわかる》



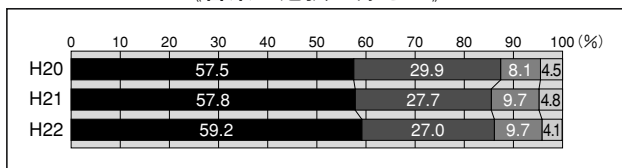
《理科の勉強は好きだ》



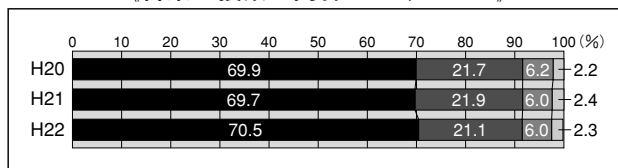
《理科の授業の内容はよくわかる》



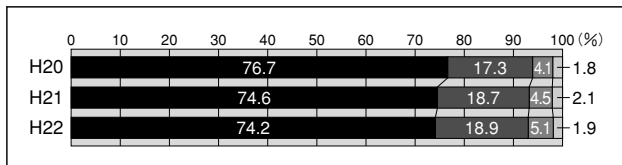
《音楽の勉強は好きだ》



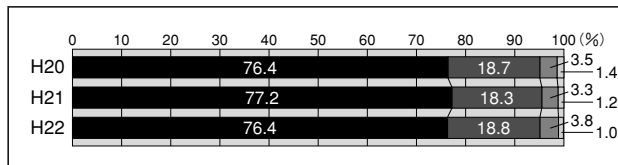
《音楽の授業の内容はよくわかる》



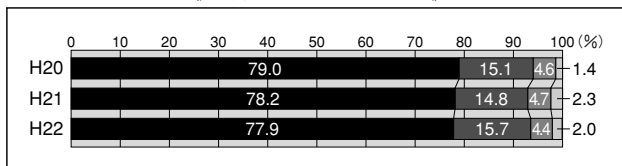
《図画工作の勉強は好きだ》



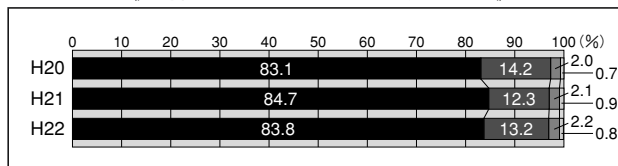
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



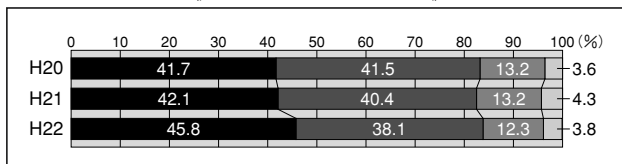
《体育の勉強は好きだ》



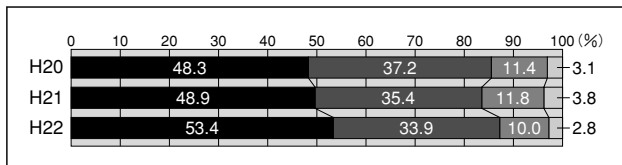
《体育の授業の内容はよくわかる》



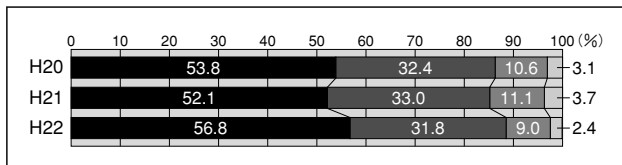
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間の勉強は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

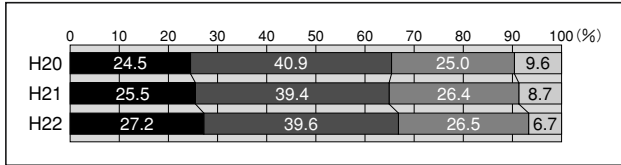


- ・《学校は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は88.9%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《国語の勉強は好きだ》《総合的な学習の時間の勉強は好きだ》《学級活動の時間は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、21年度より3ポイント以上高い。
- ・各教科の《授業の内容はよくわかる》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、87.3%～97.0%の範囲内である。

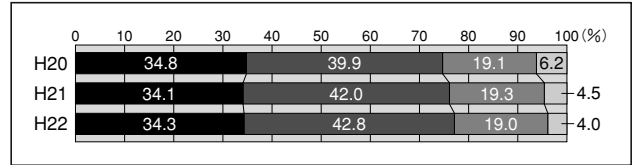
## 2 授業の中で次のようなことは好きですか。

■ 好き ■ どちらかといえば好き ■ どちらかといえば好きではない □ 好きではない

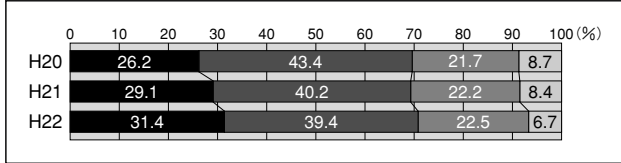
### 《自分の考えを发表或し合ったり話し合ったりすること》



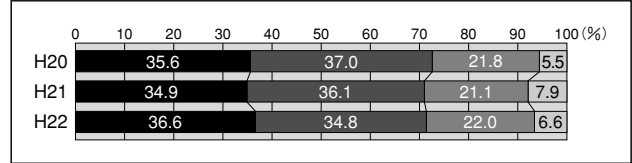
### 《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



### 《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》

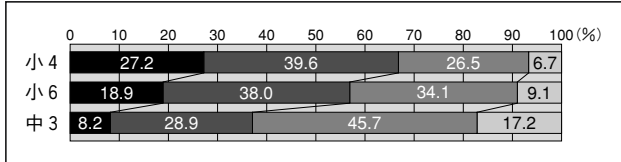


### 《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》

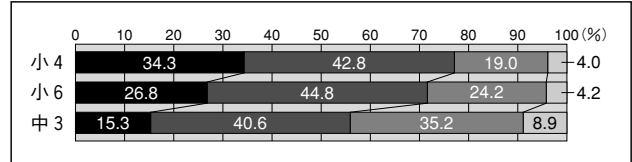


## <学年間比較>

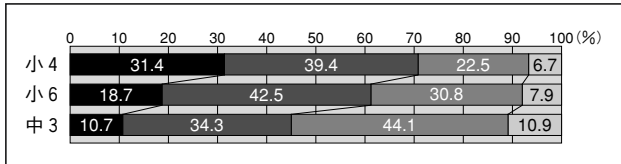
### 《自分の考えを发表或し合ったり話し合ったりすること》



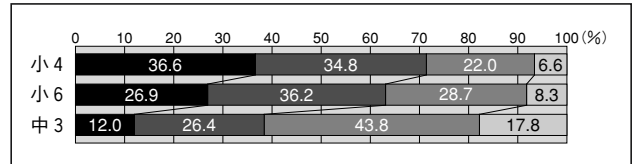
### 《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



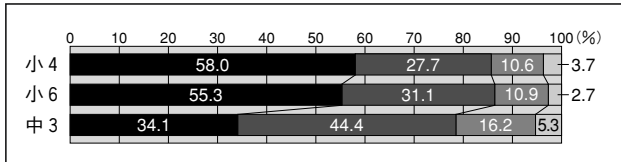
### 《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



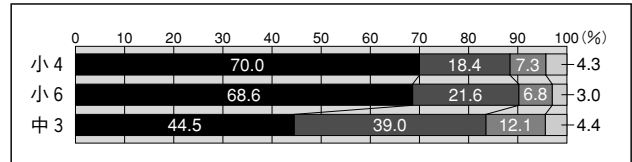
### 《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



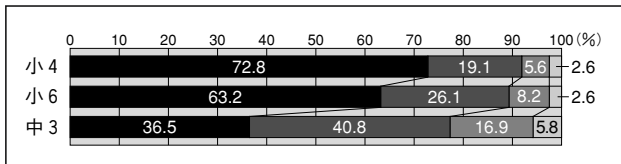
### 《少ない人数やグループで勉強すること》



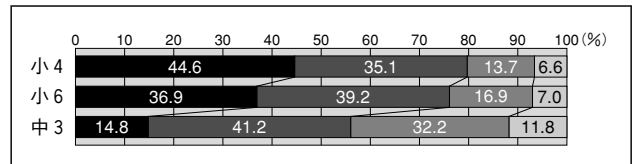
### 《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



### 《図書室を使って勉強すること》



### 《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

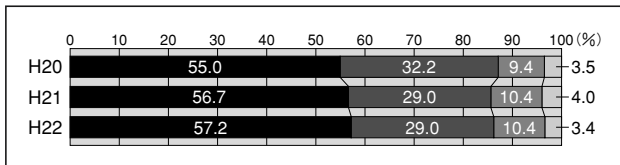


- ・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小4児童の割合は85%を超え，《図書室を使って勉強すること》は90%を超えており、21年度と同様、比較的高い。
- ・《自分の考えを发表或し合ったり話し合ったりすること》《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》について、「好き」と答えた小4児童の割合は上昇傾向にある。
- ・《自分の考えを发表或し合ったり話し合ったりすること》《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小4児童の割合は、小6児童より8ポイント以上、中3生徒より25ポイント以上高く、他の項目よりも学年による差が大きい。

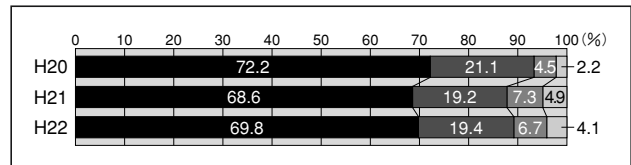
### 3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



《読書は好きだ》

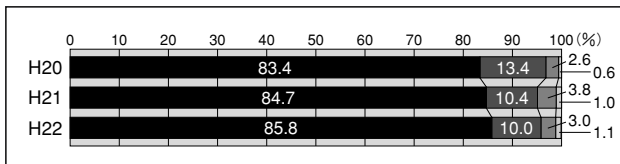


- ・《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》《読書は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、20・21年度と同様に85%を超えている。

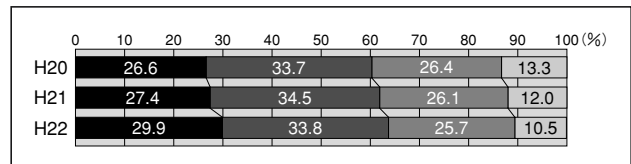
### 4 家で次のようなことをしていますか。

している
  どちらかといえばしている
  あまりしていない
  全くしていない

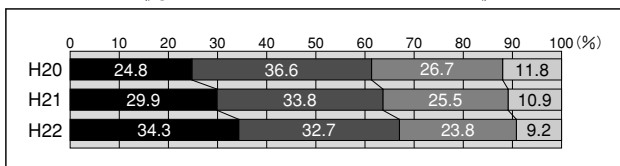
《学校の宿題をしている》



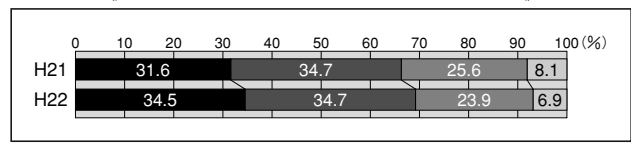
《学校の授業の予習をしている》



《学校の授業の復習をしている》



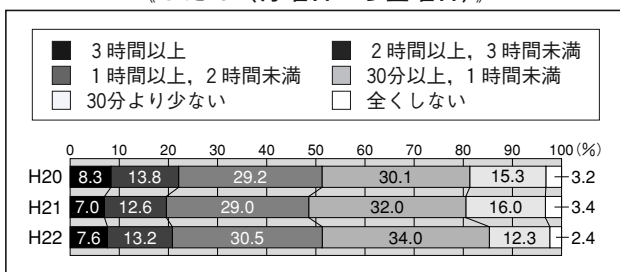
《自分で計画を立てて勉強をしている》



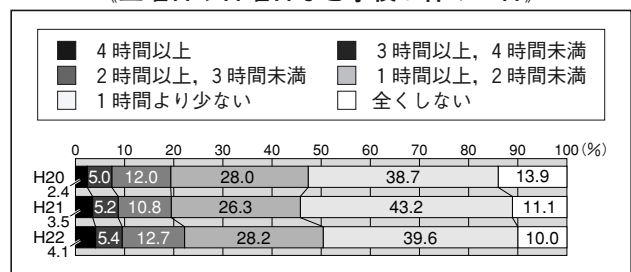
- ・《宿題をしている》について、「している」と答えた児童の割合は85.8%、「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合を合わせると95.8%で、20・21年度と同様に高い。
- ・《学校の授業の復習をしている》《自分で計画を立てて勉強をしている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、21年度に比べて約3ポイント上昇している。

### 5 1日どれくらいの時間勉強をしますか。

《ふだん（月曜日から金曜日）》



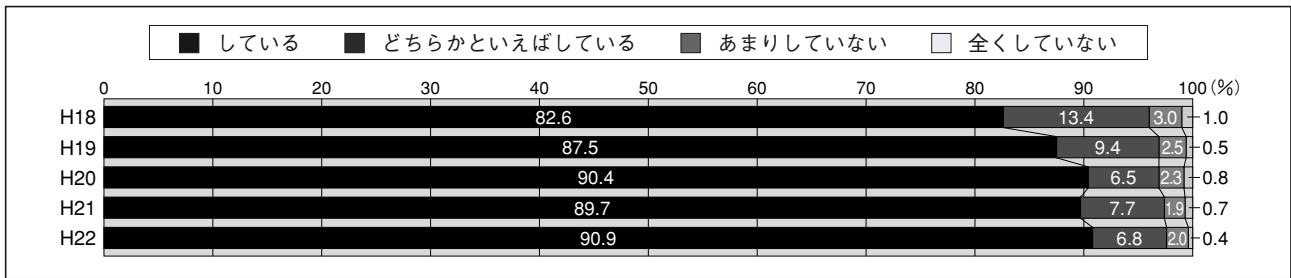
《土曜日や日曜日など学校が休みの日》



- ・平日の家庭学習時間について、「30分より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合は、21年度より4.7ポイント減少している。30分以上学習する児童の割合は85.3%であり、調査開始以来最も高い。
- ・土曜日や日曜日の家庭学習時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は22.2%であり、20・21年度より高く、「全くしない」と答えた児童の割合は減少傾向にある。

## 6 生活の中で次のようなことをしていますか。

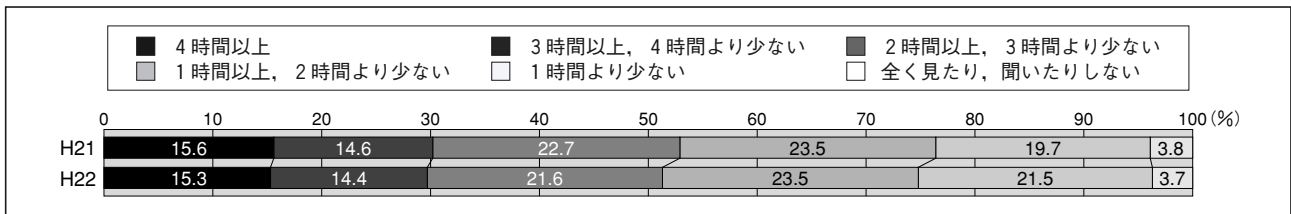
### (1) 朝食を毎日食べている。



・《朝食を毎日食べている》について、「している」と答えた児童の割合は90.9%であり、調査開始以来最も高い。

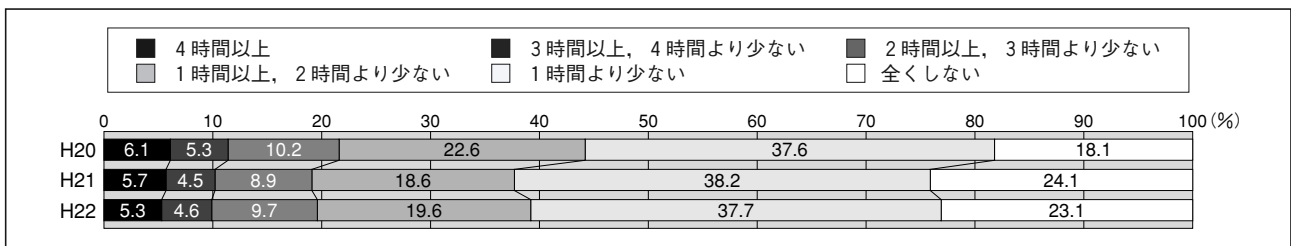
## 7

### (1) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）



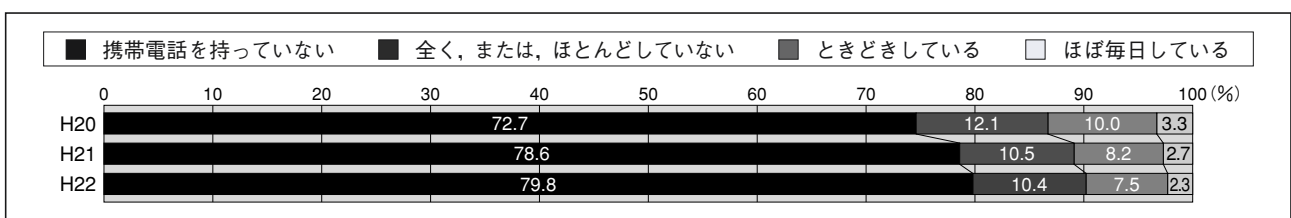
・ふだんのテレビ等の視聴時間について、「1時間より少ない」「全く見たり、聞いたりしない」と答えた児童の割合は25.2%であり、21年度とほぼ同程度である。

### (2) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含みます。）をしますか。



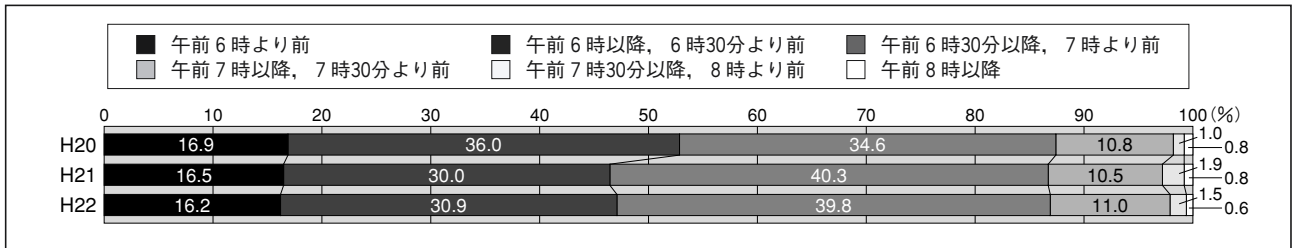
・テレビゲーム等について、「1時間より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合は60.8%であり、21年度とほぼ同程度である。

## 8 携帯電話で通話やメールをしていますか。



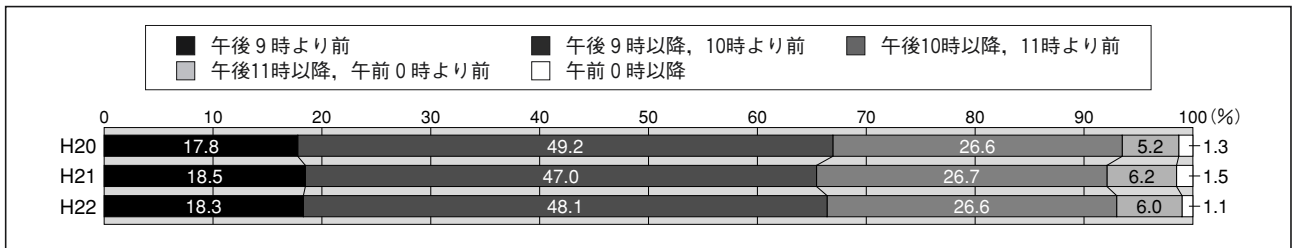
・「携帯電話を持っていない」と答えた児童の割合は79.8%であり、増加傾向にある。

(1) ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。



・ふだんの起床時刻について、「6時30分以降、7時より前」と答えた児童の割合が39.8%で最も高く、21年度と同様の傾向である。

(2) ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。

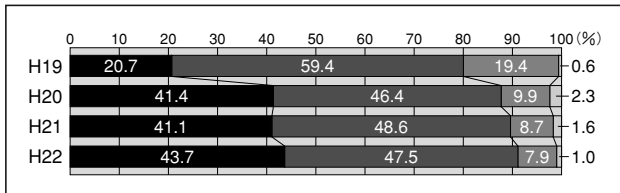


・ふだんの就寝時刻について、「午後9時以降、10時より前」と答えた児童の割合が48.1%で最も高く、20・21年度と同様の傾向である。

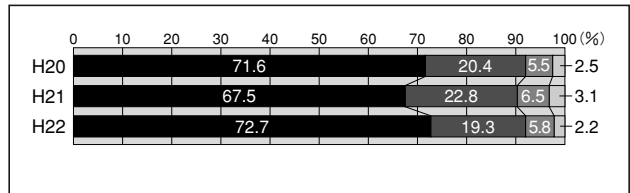
10 どのくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

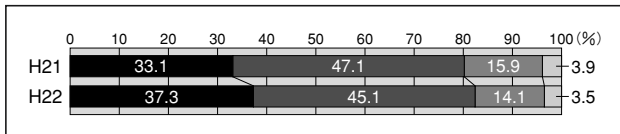
《学校のきまりを守っている》



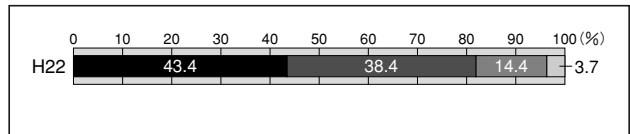
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



《人が困っているときは、進んで助けている》



《失敗をおそれないでいろいろなことに挑戦している》



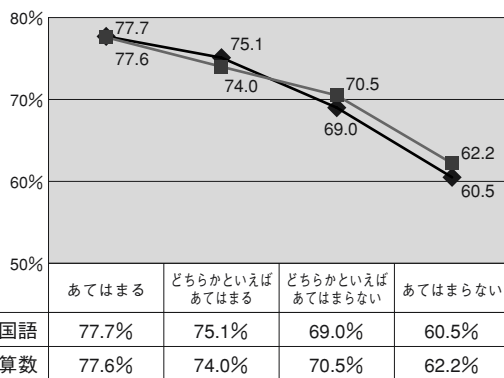
・学校のきまりを守ることに、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、91.2%と調査開始以来最も高い。ただし、その内、「あてはまる」と答えた児童の割合は半分ほどである。



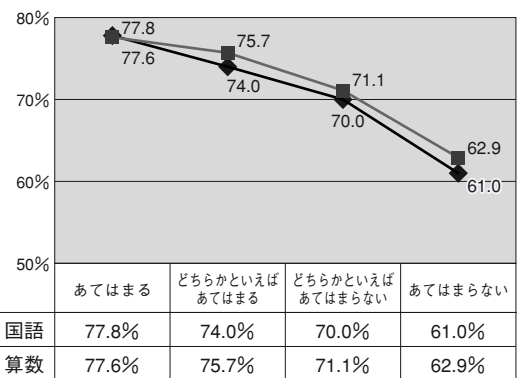
## 2 学習・生活状況と正答率との関係

- 国語・算数の授業が好きな児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- ふだんの授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- 算数の問題の解き方が分からないときにあきらめずにいろいろな方法を考える児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- 学校の宿題をしている児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- きまりを守っている児童は、国語・算数とも正答率が高い傾向が見られる。
- 平日テレビゲーム等を2時間以上する児童は、国語・算数とも正答率が低い傾向が見られる。
- 午後11時以降に就寝する児童は、国語・算数とも正答率が低い傾向が見られる。

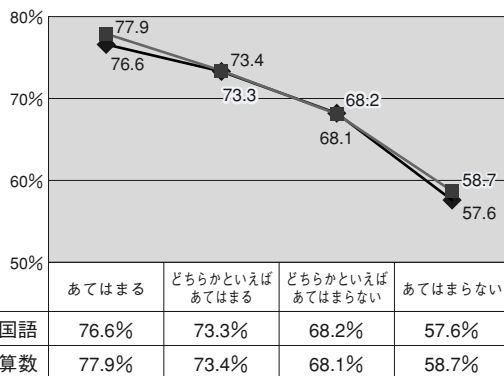
好きと正答率



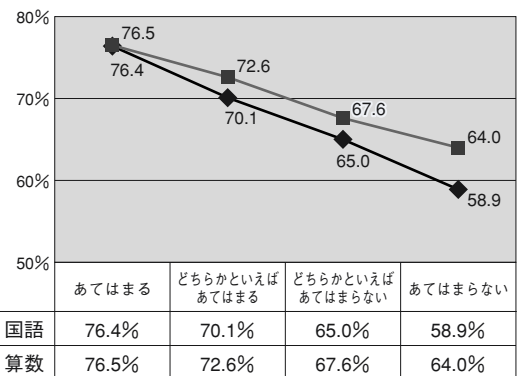
発表の機会と正答率



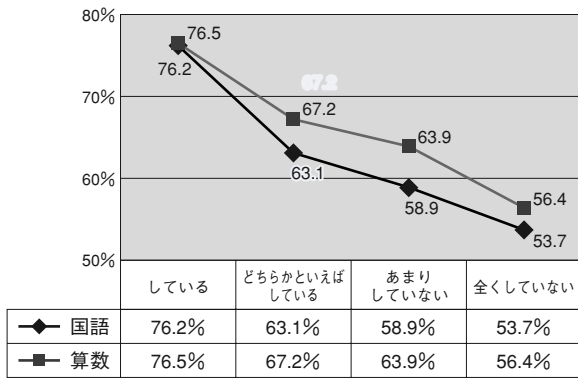
あきらめないでいろいろな方法を考えると正答率



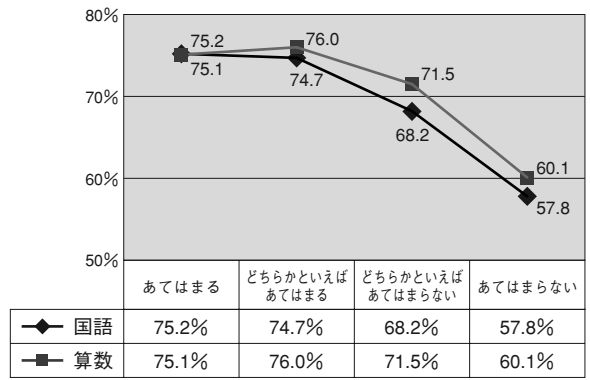
成就感と正答率



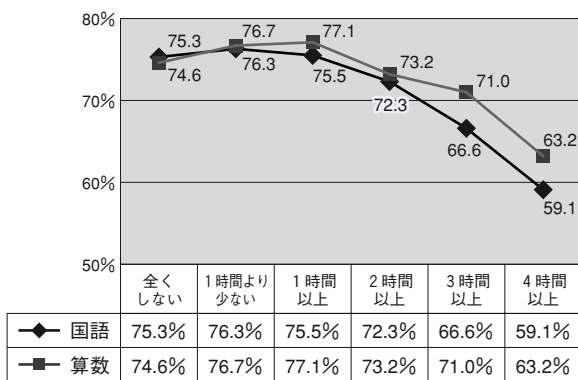
学校の宿題と正答率



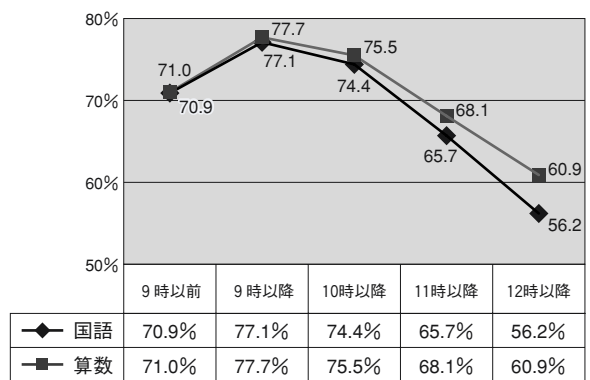
きまりの遵守と正答率



テレビゲーム時間と正答率



就寝時間と正答率



### 3 教員の調査結果

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている、学習意欲の向上を図るための工夫をしている、活用力を育成する指導をしていると肯定的に答えている教員の割合は、小中ともほぼ90%と高い。しかし、「よくしている」の割合では、基礎的・基本的な知識・技能の定着の指導の割合に比べ、学習意欲の向上、活用力の育成の割合は低い。
- 児童生徒の発言の場や活動の確保をしている教員の割合は、90%を超えているが、言語活動を重視した指導をしている割合は70%前後である。さらに、言語活動を重視した指導を「よくしている」という割合は10%程度と低い。
- 小学校教員で、習熟の遅い児童生徒への補充的な学習をしている割合は約90%と高いのに比べ、習熟の早い児童生徒への発展的な学習は約60%と低く差が見られる。また、中学校でも、それぞれ、約60%、約50%と差が見られる。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る宿題は小学校で約97%、中学校で約77%であるのに比べ、調べさせたり発展的に考えさせたりする宿題を出している割合は小学校で約63%、中学校で約42%と低い。
- 学習規律・規範意識向上・あいさつなどの指導や、ほめたり励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている教員の割合は95%を超え、高い。しかし、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導については、小学校の割合が50%強とそれほど高くない。

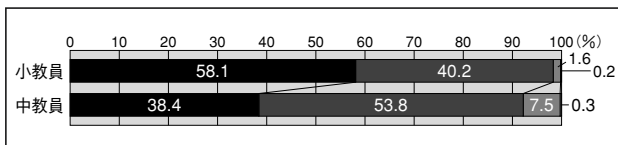
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

#### 1 次の指導を、昨年度からどの程度行っていますか。

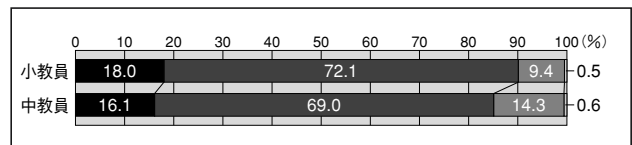
■ よくしている ■ している ■ あまりしていない □ ほとんどしていない

##### 【指導方法に関すること】

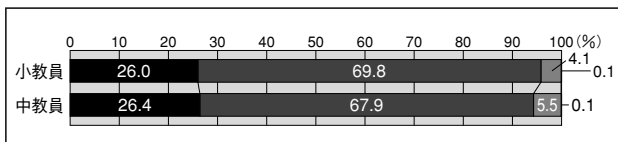
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》

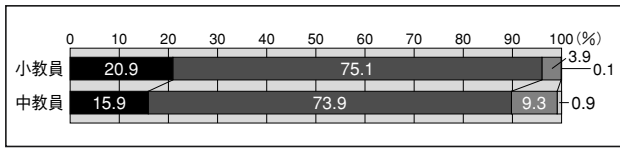


《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》

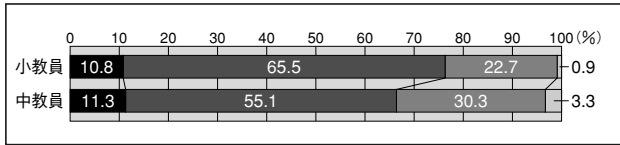


- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ったり、学習意欲の向上を図るための工夫をしたりしている割合は、小学校教員・中学校教員とも9割を超えている。
- ・ 活用力を育成する指導の割合について、小学校教員は9割、中学校教員は8割を超えている。
- ・ 「基礎的・基本的な知識・技能の定着」について、「よくしている」と答えた小学校教員の割合は約6割であり、「活用力を育成する指導」を「よくしている」と答えた小学校教員の割合は約2割である。

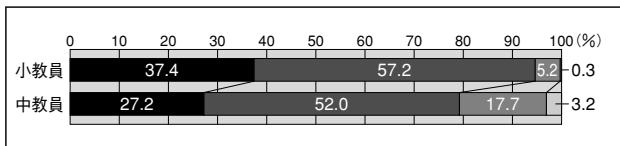
《児童生徒の様々な考えを引き出したたり思考を深めたりするような発問や指導をしている》



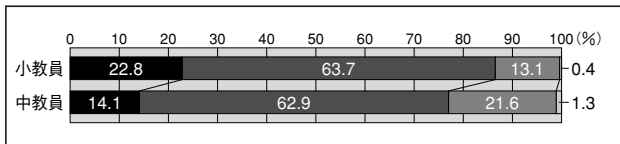
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



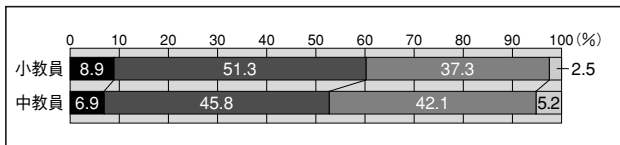
《テストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



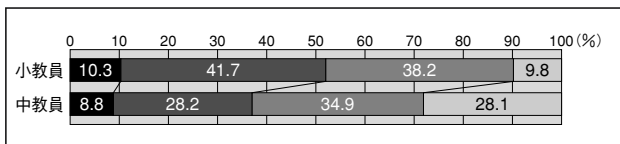
《児童生徒が、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導をしている》



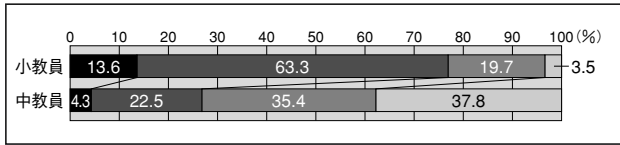
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



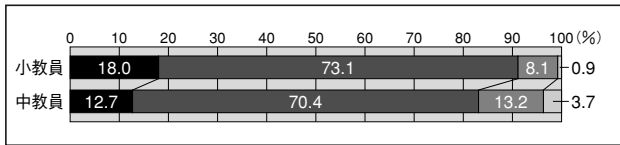
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



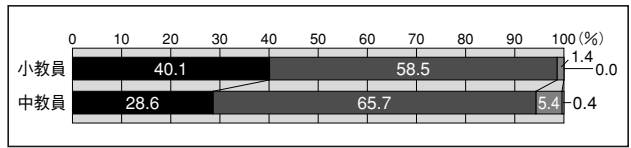
《学校図書館を活用した指導をしている》



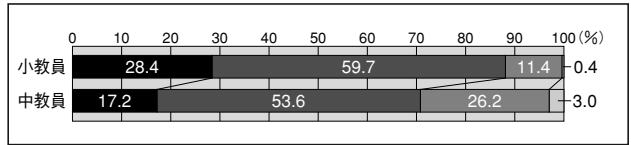
《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



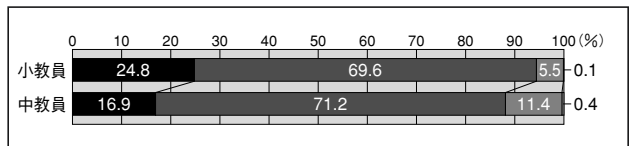
《児童生徒の発言の場や活動の時間を確保している》



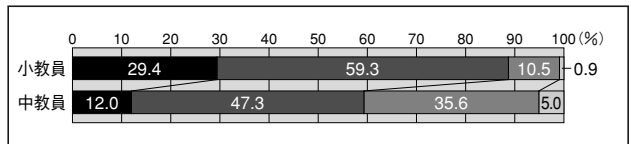
《ノートの書き方やまとめ方などの指導をしている》



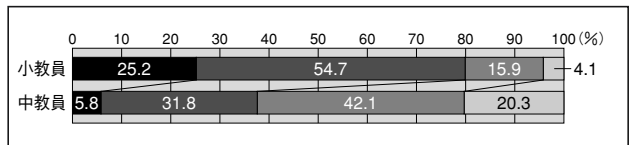
《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》



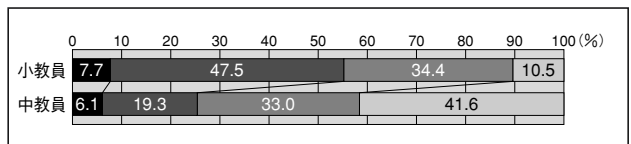
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



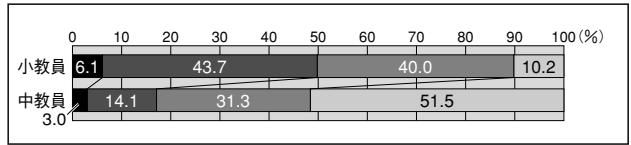
《休み時間や放課後など授業時間以外に、習熟の遅い児童生徒に、補充指導をしている》



《児童生徒がコンピュータを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



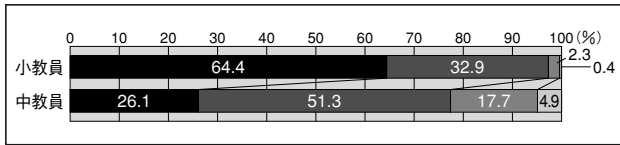
《外部の人材を活用した指導をしている》



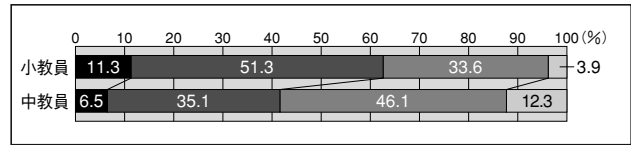
- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したたり思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の場や活動の時間を確保している》《テストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》について、小学校の9割以上の教員が「よくしている」「している」と答えている。
- ・《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》について、小学校教員の9割近く、《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》について、小学校教員の6割以上が「よくしている」「している」と答えている。

## 【家庭学習に関すること】

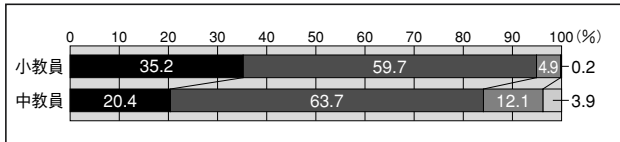
《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》



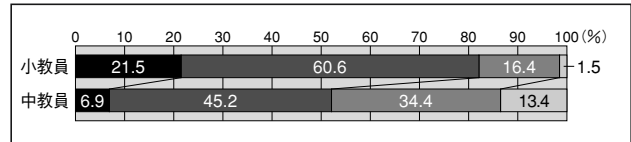
《授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするための宿題を出している》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



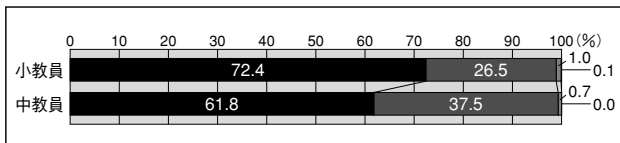
《保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



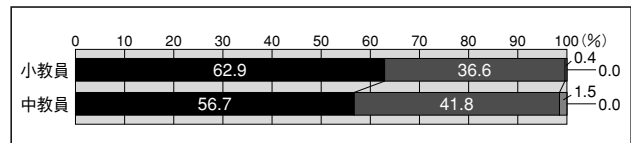
- ・家庭学習に関して、《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、小学校では9割以上、《保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》について、小学校では8割以上の教員が、「よくしている」「している」と答えている。
- ・《授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするための宿題を出している》について、「よくしている」「している」と答えている小学校教員は6割程である。

## 【学習規律等に関すること】

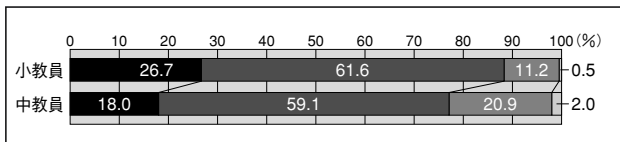
《私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律の指導をしている》



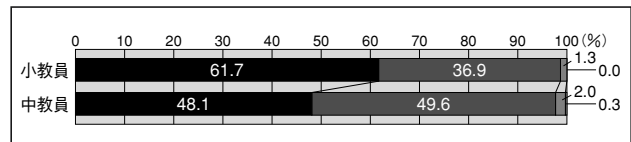
《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



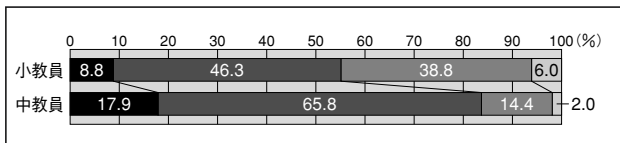
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



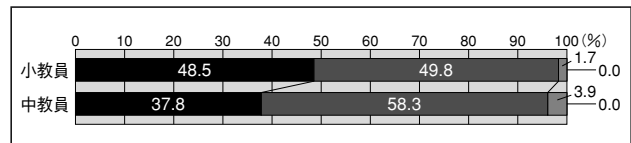
《児童生徒に、進んであいさつをするよう指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》

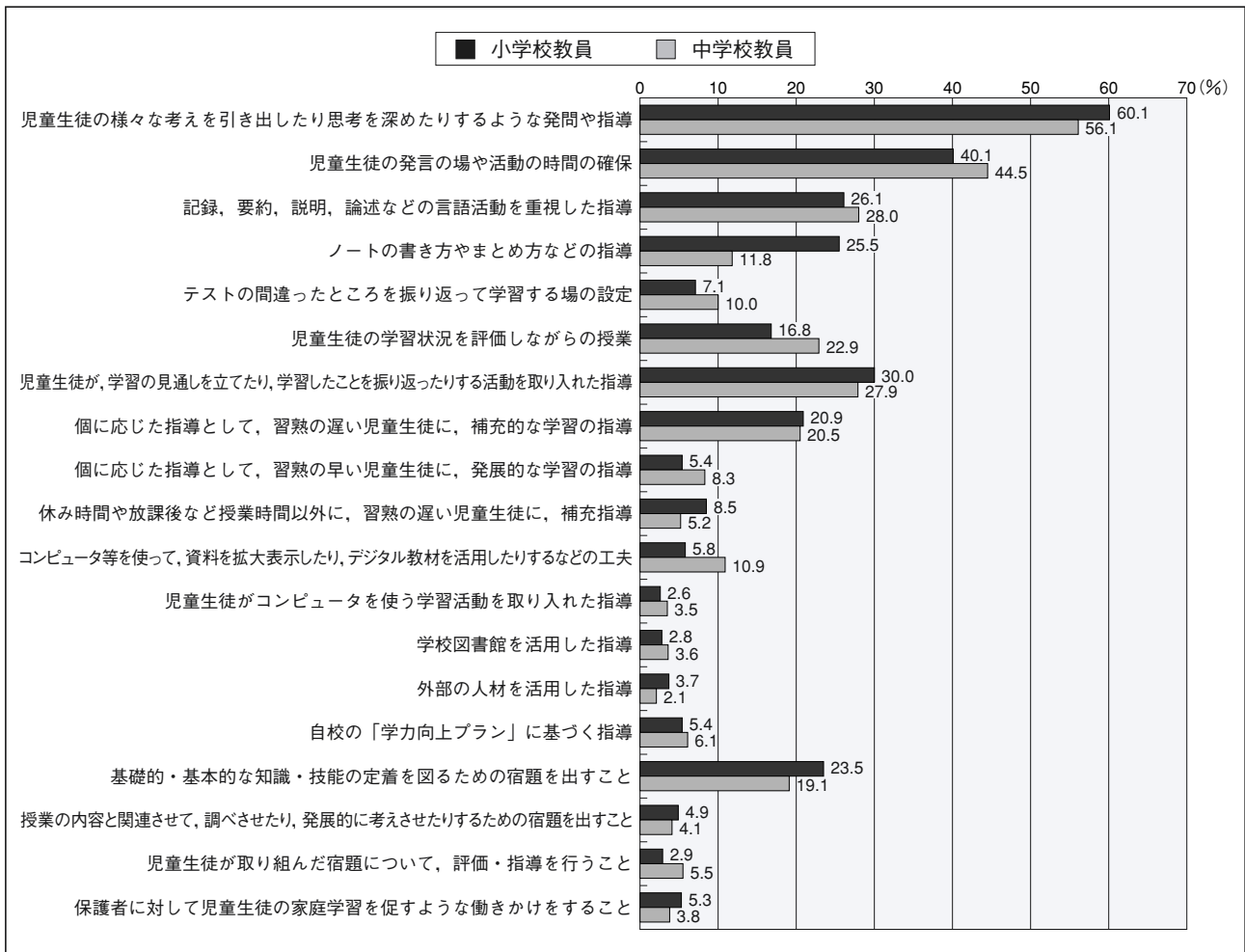


《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



- ・《私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》《児童生徒に、進んであいさつをするよう指導をしている》《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、9割以上の教員が「よくしている」「している」と答えている。
- ・《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》について、8割以上の小学校教員が「よくしている」「している」と答えている。
- ・《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》について、5割以上の小学校教員、8割以上の中学校教員が「よくしている」「している」と答えている。

2 これからの指導において、特に重点をおきたいものを3つ選んで、その番号を書いてください。



- ・ これからの指導において特に重点をおきたいものについては、「児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導」「児童生徒の発言の場や活動の時間の確保」「記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導」「児童生徒が、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導」の4項目が上位である。
- ・ 「基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出すこと」「個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導」の2項目については、上位4項目に次いで意識が高い。



### Ⅲ 分析・考察のまとめ

－ 今後の指導に向けての留意点 －

## (1) 教科に関する調査の結果より

### 改善が図られていること

- ・これまでどおり、安定して良好な基礎的・基本的な事項は、  
 大きなことを落とさずに聞くこと、基本的な四則計算、乗法九九の理解、石川県の市の名前の理解、絵の内容を表す英文を聞き取ること  
 などである。
- ・これまで正答率が低く課題であったもののうち、  
 時計の見方と時間の考え方、水溶液全体の質量変化の理解、月の動き方についての理解  
 などで正答率が上がり、改善が図られている。

### 依然、課題が見られること

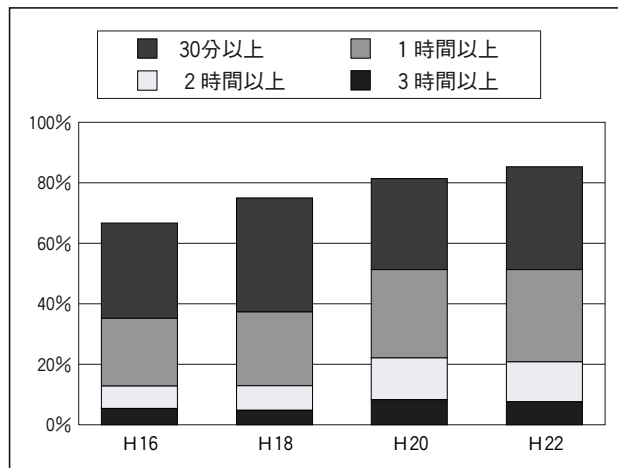
- ・基礎的・基本的な知識・技能で依然として課題が見られる事項は、  
 主語と述語の関係の理解、段落相互の関係をとらえること、身近なかさの量感覚、緯度と経度について理解し地図上の位置関係をとらえること、昆虫の体のつくりの理解、物体の質量から面に加わる圧力の大きさを求めること、回路の抵抗・電流の大きさを求めること  
 などである。
- ・活用力を問う学習内容で課題が見られるものは、  
 市町の位置を検索するなど目的に応じて地図を活用すること、複数の資料や社会的・科学的事象などを関連付けて考察すること、実験・観察結果を的確に説明すること  
 などである。
- ・さらに、自分の考えを整理して書くことについては、  
 目的に応じて内容を大きくまとめること、目的・条件に合うように適切に書くこと、まとまりのある文章を書くこと、図やグラフの情報を読み取り説明すること  
 などに課題が見られる。

## (2) 質問紙調査の結果より

### 改善が図られていること

- ・小4児童の学習意欲は年々高まっており、学校が好き、国語・社会・理科の勉強が好きと答えている児童の割合は、調査開始以来最も高い。
- ・小4児童の平日の家庭学習時間や、予習・復習、自分で計画を立てて勉強することなど、学習習慣の改善が見られる。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」といった生活習慣は、これまで同様良好である。
- ・学習規律・規範意識向上・あいさつなどの指導や、ほめたり励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている小中の教員の割合は高く、95%を超えている。

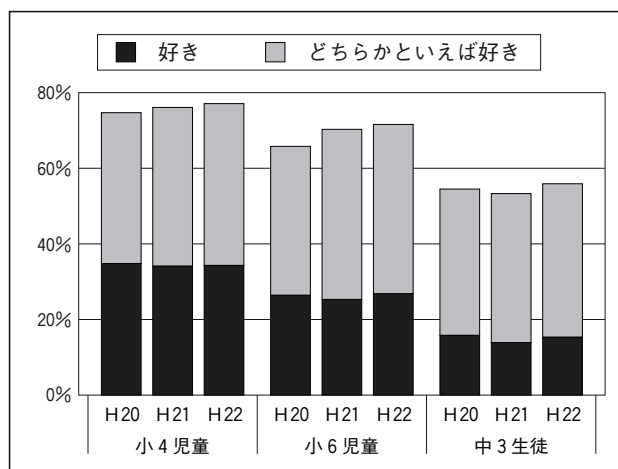
《平日の家庭学習時間が30分以上(小4児童)》



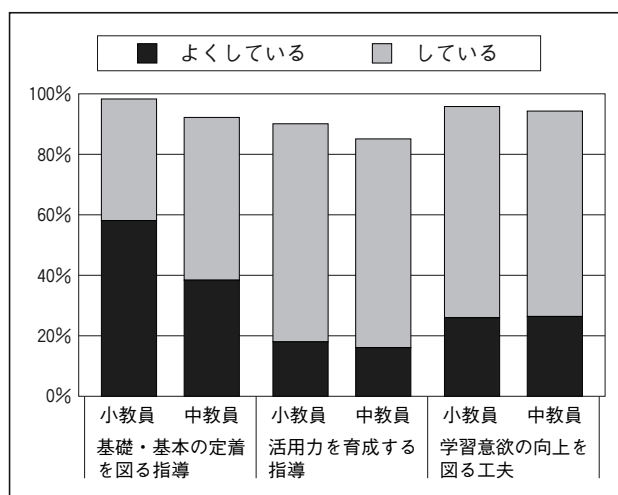
## 依然、課題が見られること

- ・自分の考えを發表すること、課題について自分で考えた方法で勉強すること、わからなかったことをもう一度勉強し直すことなどが好きという割合は、小4から小6，中3へと学年が進むにつれて低下が見られる。
- ・きまりを守る，人を進んで助ける，失敗をおそれずに挑戦すると肯定的に答えている小4児童の割合は高いが，その内，「あてはまる」と自信をもって答えている児童の割合は半分程度で，さらに改善の余地がある。
- ・昨年減少した読書が好きな児童の割合は，やや高くなったが，最も高かった20年度より低い。
- ・基礎・基本の定着，活用力育成の指導，学習意欲の向上を図る工夫について肯定的に答えている教員の割合は，小中ともほぼ90%と高い。しかし，「よくしている」割合については，基礎・基本の定着に比べ，活用力育成の指導，学習意欲の向上の割合は低い。
- ・補充的な学習に比べ，発展的な学習を指導している教員の割合は低い。また，基礎・基本の定着を図る宿題に比べ，調べさせたり発展的に考えさせたりする宿題を出している教員の割合は低い。
- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている小学校教員の割合は，それほど高くない。

## 《課題について自分で考えた方法で勉強すること》



## 《基礎・基本，活用力，学習意欲について》



## (3) 今後の指導に当たって

- ・教科に関する調査で依然として課題となっている基礎的・基本的な事項については，確実に習得できるように指導を行う必要がある。
- ・言語活動は活用力育成に欠くことのできないものであり，記録・要約・説明・論述などの学習活動を意図的・計画的に指導に組み込むことが求められる。
- ・学年進行とともに低下する学習意欲を持続・向上させるには，児童生徒に学ぶ喜びや意義を実感させなければならない。そのためには，個に応じた指導の充実による達成感のある分かる授業づくりの実現や，将来の夢や希望について考えさせるキャリア教育の推進が求められる。
- ・児童生徒の学びの基盤となる読書習慣や基本的な生活習慣，規範意識，家庭学習などの指導については，これからも継続して求められる。そのためにも，家庭・地域との連携・協力を一層重視しなければならない。

平成22年度

「基礎学力調査」一分析・考察一

平成22年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1826

e-mail : [gakusi@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:gakusi@pref.ishikawa.lg.jp)